

敦煌写本七種対照『観心論』

西口 芳男

日本で初めてまとまった形で敦煌文書を紹介した矢吹慶輝が、スタインに初めて会うのは矢吹の第一回外遊中（一九一三—一六）の一九一六年六月五日ロンドンに於いて第三回中央アジア学術探険を終えたスタインの講演を聴いたときであった。それから五箇月間の滞英中、大英博物館の地下室にあったスタイン蒐集室で自由に閲覧を許され、三百点ほどの稀観写本を六百余葉のオートグラフ（白写真）にして日本に持ち帰り、翌年五月二十二日の巢鴨宗教大学の創立記念日に『シュタイン氏蒐集敦煌地方古寫佛典オートグラフ解説目録』を附して公開陳列した。陳列された一三二点の古逸未伝の仏典中に含まれていた七種の禅文献の一つとして『観心論』があった。^①

『観心論』の研究において最初にして決定的影響を与えた論文は、最初の紹介より十五年後の一九三二年九月に発表された神尾式春の「観心論私考」である。^②朝鮮安心寺本・禅門撮要本、日本少室六門本の異本があり、古くより達磨作として知られていたものであることを見出した。更に慧琳の『一切経音義』を根拠に、北宗の大通神秀の作であるとその正体を看破したことは、『観心論』の初期禅宗文献としての資料的価値を決定づけたものであった。これに刺激されて一九三四年、相次いで三つの研究が発表される。

秀氏祐祥「少室六門集に就て」^④は、金沢文庫に「達磨和尚観心破相論一卷」、「悟性論一卷」の古写本が所蔵されていること、龍谷大学に「西天竺国沙門菩提達摩禪師觀門法大乘法論」と表題される敦煌本中に「観心論」（題号を欠く）を見出し出して報告する。次いで鈴木大拙に学んだ金九経は瀋陽にあって、安心寺本と、「大正大藏經」古逸部に収められた「観心論」の校勘を行い、「畫園叢書」一に収めて出版する。大拙もまたそれまでに知られた異本、即ち大正大藏經本、金沢文庫本、禅門撮要本、日本流通少室六門本の四本対校を行い、「達磨観心論（破相論）四本対校（上）（下）」を発表し、一九三六年、龍谷本を加えた五本対校として改訂発表した^⑤。

以上によって研究は一頓挫するが、その後更にスタイン本に二種（六四六、五五三二）、ペリオ本に三種（二四六〇、二六五七、四六四六）が見い出され、矢吹の最初に発見したS二五九五（大正大藏經本）と龍谷本を加えた合計七種が知られるに到った。敦煌禅文献を精力的に研究されている田中良昭氏は一九八六年、首尾完全なP四六四六を底本として鈴木「達磨観心論（破相論）五本対校」を校本に用い、本文校訂と訓読を「菩薩惣持法」と「観心論」（二）^⑥と題する論文に発表された。更に口語訳と注を一九八九年、「大乘仏典（中国・日本篇）11敦煌Ⅱ」（中央公論社）に発表、敦煌本について校定本と訳注が出そう。

一方、敦煌本の異本である「破相論」が含まれる「少室六門」や「達磨三論」についての研究は、椎名宏雄氏が一九七七年、「諸本対校『達磨大師三論』」^⑦の労作を出され、五山版の「達磨大師三論」を底本に、五山版「少室六門」など七種の現存資料との対校を行われた。更に一九七八年、「少室六門」と「達磨大師三論」^⑧を発表して、書誌学成立の過程を推論された。これに対して伊吹敦氏は一九九四年、椎名氏の論考は十分に論議が尽くされていない面があるとして、「達磨大師三論」と「少室六門」の成立と流布^⑨と題する長大な労作をものし、「少室六門」「達磨三論」とも宋代の編輯と推論された椎名氏の説を否定し、共に日本における編集だと断定されるに到っている。

禅文化研究所の研究会に於いて、五山版「達磨三論」をテキストにし、椎名氏の「諸本対校『達磨大師三論』」を参

考資料として読み始めたのは一九九四年三月下旬のことである。達磨に仮託された三論のうち、『破相論』は神秀作の敦煌本『観心論』であると正体は分かっているが、『悟性論』『血脉論』についてはまだ十分に解明されてはいない。

それを解明することは初期禅宗史、特に馬祖の前後の禅宗史を考えるとき重要だという認識に立ってのことだった。『血脉論』『悟性論』の訳注には椎名氏の対校本ではほぼ間に合ったが、『破相論』には七種類の敦煌本が存在する。敦煌本『観心論』には既に訳注が存在するため、『破相論』を訳注する方針ではあるが、七種類もの敦煌本を全く無視して見ないというわけにはいかない。そのため大拙の五本対校にならって、七種を対照して通観できるようにした。本資料はそれをもとにして手を加えたものである。

七種を対照して見ると、龍谷本とP二四六〇は同系の写本であることが分かる（これを龍大系と呼ぶことにする）。また『禅門経』と連写されているP四六四六とS五五三二は、ほぼ全同である（これを禅門経系と呼ぶこととする）。S二五九五（大正蔵本と呼ぶ）を龍大系・禅門経系と比べてみると、禅門経系に属するが、末尾の偈がない。このことはS二五九五が禅門系とは伝持者の系統が異なることを示しているように思われる。そもそも禅門経系の末尾の偈は、もともとの『観心論』にあったものかどうか疑わしい。論を縮括するための末尾の偈は、その論を総括するようなものであつてしかるべきであろう。ところがこの偈は論とは関係なく、一種の格言的な偈でもって縮括している感じであり、なくても何ら差し支えなく、本来はなかったものと推測する。

龍大系と大正蔵本・禅門経系では語句の出入や違いは見られるが、文意に大差はない。ただ一箇所、大きく違いを見せる所が（9）に存在する。その箇所を取り出すと次のようである。

龍大系

由持如是戒定惠等三種淨戒、故能超彼岸。

因三毒業、断三毒患、得成仏道。

禅門経系・大正蔵本

（由）持如是戒定惠等三種淨法、故能超彼

（三）毒患業報、（即）成仏也。

（ ）は大正蔵本に依り補った。

「三毒業に因りて、三毒悪を断つ」とは、神秀の禅思想からは出てこない。従つて禅門経系の方こそが元の『観心論』の文脈であつたに違いない。龍大系はなぜこのような文脈になつたのか。恐らく誤写によつて文意が不明になつたところを読めるように改めた結果ではないだろうか。「因三毒業、断三毒悪」とは、三毒（貪瞋癡）は悪だとする二項対立的意識の枠組を破つて主体的に三毒を自由に使つていくことだろう。このような読みが出来るようになるためには、馬祖以後の禅思想の成熟した時代背景がなければならない。このことから龍大系は禅門経系よりも後の時代の異本と推定される。

更に言えば龍大系の『観心論』は既に達摩禅師作と見なされて書写されていたのではないだろうか。龍谷本は「西天竺國沙門菩提達摩禅師観門法大乘法論」の表題のもとに九種の文献が連写され、『観心論』の終わった後に「西國梵音唐言此論翻譯」とあることから、その可能性は高い。一方、P二四六〇も「第一祖達摩禅師 梁武帝撰」の達摩の碑文が続いて書写されたものであるから、この『観心論』も達摩作と見なされていた可能性がある。

P二四六〇の「第一祖達摩禅師 梁武帝撰」は、龍谷本にも「西國梵音唐言此論翻譯」に続いて「第一祖達摩禅師 梁武帝撰」と見えるのだ。龍谷本だけを見ていると「梁武帝撰」の文字は解し難かつたが、奇しくもP二四六〇に繋がつた。大胆な推測かもしれないが、龍谷本『観心論』は次に「第一祖達摩禅師 梁武帝撰」の達摩碑文が連写されていたもので、「西天竺國沙門菩提達摩禅師観門法大乘法論」はその『観心論』部分だけを書き写し、書き写す際にも「第一祖達摩禅師 梁武帝撰」まで入ってしまったものではないだろうか。そう見てくると龍大系の『観心論』はもともと達摩の碑文を連写した同系統のものだったわけであり、対照したとき龍大本とP二四六〇が似かよつていて見て取れたのは当然のことだったことになる。

P二六五七は(12)に二箇所増広があり、諸本に見えぬものが加わっている。一つは長明灯を説明しているところ

故燃七燈者、七識也。中間一識轉動、七識流轉、七々四九、燃四九燈、□除身中雜染種子、□□□闍照用□□□通無碍。

とある。もう一つは末尾に、

又造翻數珠念仏者、其惟福也。所謂數珠者六根也。一根起、染六處。俱轉六々三六軍賊為貪、三六為瞋、三六為癡、以成三毒。今為一百八煩惱。若能覺了、觀照身心功用、念々連珠、心无染着、不起不動。今於體性、造四九尺長。

翻者謂七識也。一識轉動、七處隨轉、故七々四九也。方便使翻七識、轉入寂靜、即法海湛然、息風滅波、惠水長流、内外明淨、即虚通无碍、令如来性真如湛寂。時人愚迷、不會聖意、費損繪綵、身外念仏、求於福惠、非所應。若能俱持、亦是衆生之所少善也。若是行人必須内求、外无益也。

とある。前の増広では、七識の灯を燃やして闇を照らすと説き、後者は七識を翻して寂靜に転入し、如来性真如を湛寂ならしめるという。しかし『観心論』の他の所では七識や種子を言うことはなく、観心の一法に一切を收斂するものであるから、増広部分と思想の波長が合っているとはいえない。また(12)の初めの問いでは、仏が衆生に行わせる種々の功德を具体的に列挙し、答えの方ではその一つ一つに観心ということからはどうなるかを説いているのであるが、初めに數珠念仏が挙がっていないのに答にそれが説かれているのは唐突で文脈上浮き上がっている。明らかに後人の増広附加であろう。P二六五七を龍大系、禅門経系と対照してみると、混合したものとなっており、どちらかといえば龍大系に近いといえる。このP二六五七の紙背文書はP三〇一八(菩提達磨論と題される四行論長卷子雜録部)、P三六六四(円明論)、P三五五九(P三六六四につながる円明論、修心要論、伝法宝記等の初期禅宗文献を連写したもの)につながり、天宝十年(七五二)頃の「敦煌県差科簿」といわれる紙背及び書写された禅文献の筆跡からこれらの四点の禅文献は、七六〇年か七七〇年頃の書写であると推定されているものである。とすればP二六五七の観心論はS二五九五から龍大系に変わっていく過程のものということになる^⑤。

S 六四六は、臥輪禪師看心法（首欠）の異本に当たるものに次いで、『観心論』の（3）に相当するものがあり、続いて三界の説明文・假讀百事經・楊州顛禪師与女人問答詩が書写されている。『観心論』（3）に当たるものは、問いの部分がなく、染心と淨心の二種の心の差別があると説くところから始まり、染心に随えば三界に沈淪して種々の苦を受けるというところまではほぼ諸本と同じだが、その理由を説明するところからは全く異なる。諸本では染心が真如の体を障げるからだと言明して『十地經』『涅槃經』を引くが、S 六四六では自体が自性を見失って真如に塵翳が生じるからだと言いた後、唯識の種子熏習説を展開して雑染種子の断じ難きを論じている。『観心論』の思想とは掛け離れた展開となっていることから、『観心論』の異本といえるかどうか問題だろう。前半がほぼ同じことから関係があることは否定できない。結論を急いではならないが、『観心論』（3）を唯識説をもって説明しなおしたものだと言えよう。ただP 二四六〇の増広部分に七識や種子の言及があり、このP 六四六にも種子説が展開されていることは興味深い。以上をまとめると次のようである。P 四六四六・S 二五九五・S 五五三二（禅門経系）と龍谷本・P 二四六〇（龍大系）の二系統の写本に分かれるが、禅門教系がより原本に近く、龍大系は達摩作として伝授されていた可能性がある。禅門経系の中では末尾の偈のないS 二五九五（大正藏本）が最も原本に近いのではと推測される。P 二六五七は禅門経系と龍大系の中間に位置するものであり、(2)に増広付加がある。S 六四六は（3）の部分に相当するが、種子熏習説を展開し、厳密に『観心論』の異本といえるかどうか問題であるが、P 二六五七の増広付加部分とは種子で繋がるどころが興味深い。

註

① 矢吹慶輝「シュタイン氏蒐集燉煌地方出古写仏典ルートグラフ解説目録」〔宗教研究〕第二卷三号・第二年六号・第二年八号、一九一七年九月・十一月、一九一八年八月。

同「スタイン氏蒐集燉煌出土支那古寫本の調査」(『宗教研究』新第五卷一号、一九二八年一月)。

柳田聖山「敦煌の禅籍と矢吹慶輝」(講座敦煌8『敦煌仏典と禅』、大東出版社、一九八〇)。

②『宗教研究』第九卷五号、一九三二年九月。神尾氏が見られた安心寺版の『観心論』、『血脉論』、『最上乘論』の三本は各々独立した一書として伝わっていたものと思われるが、日本においては北苑文庫(金閣寺)にこの三本を『観心論全』と表題して一書にまとめたものが存在する。無者道忠『少林三論并四品校讎』に「享保甲寅之冬、観達摩観心論血脉論五祖最上乘論為一册者。朝鮮刻本。在南涌院、借得而寫之」(柳田聖山主編『禅学叢書之二』二二一頁、中文出版社)とある南涌院本との関係は不詳だが、日本では三本が一書となっていた。

③『龍谷學報』第三〇九號、一九三四年六月。

④金九經校訂「校刊安心寺本達摩大師観心論・校刊大乘開心顯性頓悟真宗論」『葦園叢書』一、一九三四年七月。

⑤『大谷學報』第十五卷四號・第十六卷二號、一九三四年十二月、一九三五年六月。

⑥「達摩観心論(破相論)五本對校」『校刊少室逸書解説附録』、安宅仏教文庫発行、一九三六年五月。後に『鈴木大拙全集』別卷一(岩波書店、一九七一年四月)に収録される。

⑦以後の研究史については、田中良昭「敦煌禅宗資料分類目錄初稿、Ⅱ禅法・修道論」(『駒沢大学仏教学部研究紀要』第二九号、一九七一年三月)に詳しい。

『大乘仏典(中国・日本篇 敦煌Ⅱ)(中央公論社、一九八九年一〇月)に参考文献が網羅されている。

⑧『駒沢大学仏教学部研究紀要』第四十四號、一九八六年三月。

⑨『駒沢大学仏教学部論集』第八號、一九七七年一〇月。

⑩『駒沢大学仏教学部論集』第九號、一九七八年一月。

⑪『論叢アジアの文化と思想』第三号、一九九四年一二月。

⑫ 田中萬善「敦煌出土文献の再検討―特に観心論S、五五三二号について―」（『宗教研究』第四一巻第三輯、一九六八年三月）に既にこのことについての指摘がある。

⑬ 四弘誓願、達摩禪師観門、法性論（擬題）、證心論、除睡眠、修心要論、三宝問答（擬題）、大乘諸法二辺義、観心論の九の文献。

⑭ 上山大峻「敦煌における禅の諸層」（『龍谷大学論集』第四二一号、一九八二年）田中良昭「敦煌本『圓明論』について」（『印度学仏教学研究』第十八卷一号、一九六九年）

⑮ P二六五七の末尾に「天復三年（九〇三）十一月」とある年号はどう考えればよいのだろうか。筆跡からは観心論につながるものかどうか判断しにくい。今は観心論と関係がなく後の他の文献の書写のときのもものと見ておく。もし観心論につながるものならば、四点のペリオ本の筆写年代の見直しを迫るものとなる。

凡 例

○本書は敦煌写本中より発見された七本の『観心論』の翻刻である。

○翻刻に際しては以下のものを利用した。

・敦煌宝蔵

・国際禅学研究所柳田文庫所蔵のスタイン本・ペリオ本の禅宗関係写本の写真。

・龍谷大学図書館所蔵「西天竺国沙門菩提達摩禪師観門法大乘法論」の写真コピー。

・大正大蔵経卷八五・古逸部「観心論」。

・鈴木大拙「達摩観心論（破相論）五本対校」。

・田中良昭「菩薩惣持法」と『観心論』(二)。

・ S 二五九五、S 五五三二については一九九四年夏、マガダム幸子氏が大英博物館に赴いて調査された資料。

○翻刻に当たっては鈴木大拙の「五本対校」にならって15の段落に分け、通し番号を冒頭に付した。

○校異や対校については、各写本各段落ごとに通し番号を付し、その段落の終わりごとに一括して示した。それを見ることによって通読できるように句読点をつけた。

○対校についての表記法は大正新修大藏經に倣う。敦煌本七種の略符号は次のようである。

P 四六四六―①

龍谷本―②

S 二五九五―③

S 五五三二―④

S 六四四六―⑤

P 二四六〇―⑥

P 二六五七―⑦

觀心論

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

(1)問、若復有人、志求佛道、當脩何法、最為省要。

(1)若復有人、至求佛道、當修何法思惟。

答曰、唯觀心一法、惣攝諸行、名為最要。

答曰、觀法惣攝諸行、名為最要。

(2)又問、云何云一法能攝諸行。

(2)又問、云何一法能攝諸行。

答曰、心者万法之根本也。一切諸法、唯心所生。若能了心、則万行俱備。

答曰、法諸根本也。一切諸法、唯心所生。若能了心、則万行俱備。猶如大樹枝條及諸花菓、皆悉因根。栽樹者存根而活。生長大樹者棄根而死。若了心修道、則省力而易成。不了心而修、乃費功夫而无利益。故知、一切善惡皆由自心。心外別求、修无是法。

猶如大樹所有枝條及諸花菓、皆悉自心根本生長。栽樹者存根而始生、伐樹者去根而必死。

皆悉因根。栽樹者存根而活。生長大樹者棄根而死。若了心修道、則省力而易成。不了心而修、乃費功夫而无利益。故知、一切善惡皆由自心。心外別求、修无是法。

了心脩道、則省力而易成。不了心者所脩、乃費功而无益。故如、一切善惡皆由自心。若心外別求、終无是法。

①(心者万)十法

①(二五)一

②諸之

③修終

益故知一切
□□□□□□□□
□□□□□□□□
□□□□□□□□

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 88)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

金剛佛性、猶如日輪、體明圓滿、廣大无邊。止為五蔭重雲所覆、如瓶內燈光、不能顯了。又涅槃經云、一切衆生、皆有佛性。无明覆故、故不得解脫。佛性者即覺性也。但自覺覺他、智惠明了、離其所覆、則名解脫。故知一切諸善以覺為根。因其覺根、以為顯現諸功德樹。涅槃之果、因此而成。如是觀心、可名為了。

猶如日輪、體明圓滿、廣大无邊、只為五蔭重雲所覆、如瓶內燈光、不能顯了。又涅槃經云、一切衆生、皆有佛性。无明覆故、不開解脫。仏性者則有覺性也。但自覺覺也、智惠明了、離其所覆、即名解脫。故知一切諸善以覺為根。因其覺根、以為顯現諸功德樹。涅槃之果、因此而成。如是觀心、可名為了。

是觀心可名為了

- ①凡||名[Ⓔ]
- ②〔故〕-〔B〕[Ⓕ]

- ①〔問〕十云[Ⓐ]
- ②成||我[Ⓐ]
- ③未||尔[Ⓐ]
- ④想||相[Ⓐ]
- ⑤緣||染[Ⓐ]、[Ⓔ]
- ⑥諸||之[Ⓐ]、[Ⓔ]
- ⑦維||隨[Ⓐ]
- ⑧種||纏[Ⓐ]
- ⑨知||名[Ⓔ]之[Ⓔ]

无明覆故、故不得解脫。佛性者即覺性也。但自覺覺他、智惠明了、離其所覆、則名解脫。故知一切諸善以覺為根。因其覺根、遂顯現諸功德樹。涅槃之果、因此而成。如是觀心、可名為了。

- ①〔故〕-〔B〕[Ⓕ]

並由外取想、即作外塵解。塵想既多、識心非一。隨心動處、皆是染着。便隨種種心、造作種種行、以種種行即有種種業生、以應受種種報。其義云何。但由染心偏重、業即隨來。既有種種勳習、自然有種種性。既有種種性、生貪浴不斷。即有種種因緣所處即不待耶師止示自然分別、任運生染、恣着万境、增此新勳、即雜染種子、縱令修行、欲改前非、但為宿習力彊想心慣習即不斷。仍大用功夫、久修清淨、漸漸除妄、然可依希也。若不如是、依染心所習、損却真如慧、家宅破失、号云六賊。努力修

猶如日輪、體明圓滿、廣大无邊、只為五蔭重雲所覆、如瓶內燈光、不能顯了。又涅槃經云、一切衆生、皆有佛性。无明覆故、不得解脫。仏性者即覺性也。但自覺覺他、智惠明了、離其所覆、即名解脫。故知一切諸善以覺為根。因其覺根、遂能顯現諸功德樹。涅槃之菓、因此而成。如是觀心、可名為了。

- ①〔名〕十之[Ⓔ]

(4)又問、上說真如佛性、一切功德、因覺為根。未審无明之心、一切諸惡、以何為根。
答曰、无明之心、雖有八万四千煩惱情慾及恒沙衆惡无量无邊、取要言之、皆因三毒、以為其本。三毒者、即貪嗔癡是也。此毒心、自具足一切諸惡、猶如大樹。根雖見一、所生枝葉、其无量數。彼三毒根中、有諸惡業。百千万億過於前、不可為喻。如是三本心、於本體中、自

P 4646

龍谷本

(4)又問、上說真如佛性、一切功德、因覺為根。未審无明之心、一切諸惡、以何為根。
答曰、无無之心、雖有八万四千煩惱情慾及恒沙衆惡无量无邊、取要言之、皆因三毒、以為其本。其三毒者、即貪嗔癡也。此毒心、自能具足一切諸惡、猶如本樹。根雖見一、生所受枝葉、其數无量。彼三毒根、一一根中、生諸惡業、百千万億倍通於前、不可為喻。如是三心、於

S 2595 (T 85)

(4)又問、上說真如佛性、一切功德、因覺為根。未審无明之心、一切諸惡、以何為根。
答曰、无明之心、雖有八万四千煩惱情慾及恒沙衆惡无量无邊、取要言之、皆由三毒、以為其本。其三毒者、即貪嗔癡也。此三毒心、自能具足一切諸惡、猶如大樹。根雖是一、所生枝葉、其數无量。彼三毒根中、生諸惡業、百千万億倍過於前、不可為喻。如是三心、於

S 5532

(4)又問、上說真如佛性、一切功德、因覺為根。未審无明之心、一切諸惡、以何為根。
答曰、无明之心、雖有八万四千煩惱情慾及恒沙衆惡无量无邊、取要言之、皆因三毒、以為其本。三毒者、即貪嗔癡也。此毒心、自具足一切諸惡、猶如大樹。根雖見一、所生枝葉、其无量數。彼三毒根中諸惡業、百千万億過於前、不可為喻。如是三心、於

S 646

(4)又問、上說真如佛性、一切功德、因覺為根。未審无明之心、一切諸惡、以何為根。
答曰、无明之心、雖有八万四千煩惱情慾及恒沙衆惡无量无邊、取要言之、皆因三毒、以為其本。其三毒者、即貪嗔癡也。此毒心、自能具足一切諸惡、猶如大樹。根雖見一、生所枝葉、其數無量。彼三毒根、一一根中、生諸惡業、百千万億倍過於前、不可為喻。如是三心、於本體中、自為三毒。

P 2460

(4)又問、上說真如佛性、一切功德、因覺為根。未審无明之心、一切諸惡、以何為根。
答曰、无明之心、雖有八万四千煩惱情慾及恒沙衆惡无量无邊、取要言之、皆因三毒、以為其本。其三毒者、即貪嗔癡也。此毒心、自能具足一切諸惡、猶如大樹。根雖見一、生所枝葉、其數無量。彼三毒根、一一根中、生諸惡業、百千万億倍過於前、不可為喻。如是三心、於本體

P 2657

- ⑩ 輕 || 於(A)(E)(F)
- ⑪ 輪 || 淪(A)(F)
- ⑫ 聞 || 得(A)(D)(F)
- ⑬ [有] | (A)(D)(F)
- ⑭ 也 || 他(A)(D)(F)

- 行、常觀不息、即合大道也。
- ① 護 || 本(A)、亦(B)
- ② 輪 || 淪(A)(F)
- ③ 以下八諸本二見エウ。

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 6446

P 2460

P 2657

為三毒。若應現六根、亦名六賊。其六賊者、則名六識也。出入諸根、貪着万境、能成惡業、損真如體、故名六賊。一切衆生、由此三毒及以六賊、感乱身心、沈沒生死、輪迴六趣、受諸苦惱。又有江河、因少泉源、涓流不絕、乃能弥漫、波濤万里。若復有人、断其本源、則衆流皆息。求解脫者、除其三毒及以六趣、自然永離一切諸苦。

本鉢中、自為三毒。若應現六根、亦名六賊。其賊者六識是也。由此六識、出令根、貪着万境、能成惡業、損真如鉢、故名六賊。一切衆生、由此三毒及以六賊、或乱身心、沈輪生死、輪迴六趣、受之苦惱。又江河小泉源、涓流不絕、及能弥漫、波濤万里。若復有人、断其本源、則衆流皆息。求解脫者、能除三毒及以六賊、自然離一切功德諸惡。

自為三毒。若應現六根、亦名六賊。其六賊者、則名六識。出入諸根、貪着万境、能成惡業、損真如體、故名六賊。一切衆生、由此三毒及以六賊、感乱身心、沈沒生死、輪迴六道、受諸苦惱。又有江河、因少泉源、涓流不絕、乃能弥漫、波濤万里。若復有人、断其本源、則衆流皆息。求解脫者、除其三毒及以六賊、自能除一切諸苦。

若應現六根、亦名六賊。其六賊者、則名六識也。出入諸根、貪着万境、能成惡業、損真如體、故名六賊。一切衆生、由此三毒及以六賊、感乱身心、沈沒生死、輪迴六趣、受諸苦惱。又有江河、因少泉源、涓流不絕、乃能弥漫、波濤万里。若復有人、断其本源、則衆流皆息。求解脫者、除其三毒及以六趣、自然永離一切諸苦。

中、自為三毒。若應現六根、亦名六賊。其六賊者、六識是也。由此六識、出入諸根、貪着万境、能成惡業、真如體、故名六賊。一切衆生、由此三毒及以六賊、或乱身心、沈淪生死、輪迴六趣、受諸苦惱。又如江河、因少泉源、涓流不絕、乃能弥漫、波濤万里。若復有人、断其本源、則衆流皆息。求解脫者、能除三毒及以六賊、自然離一切諸苦。

- ①見||是(B)(C)(F)
- ②趣||賊(B)(C)(F)

- ①無||明(A)(C)(D)(F)
- ②如||及(A)(C)(D)
- ③本||大(A)(C)(D)(F)
- ④生所||所生(A)(C)(D)
- ⑤(受)一(A)(C)(D)(F)
- ⑥通||過(A)(C)(D)(F)
- ⑦令||入諸(A)(C)(D)(F)

- ①口||嘔(A)(F)
- ②見||是(B)(C)(F)
- ③趣||賊(B)(C)(F)

- ①愍||功(A)(B)(C)(D)
- ②如||及(A)(C)(D)
- ③生所||所生(A)(C)(D)
- ④口||損(A)(C)(D)
- ⑤或||惑(A)(C)(D)
- ⑥滴||漫(A)(C)(D)

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

(其三界者則) +

三^④

②者^②也^③④

[者] - ①

④唯 + [心] ① ② ③ ④ ⑤
⑤法^⑤ 結 ① ② ③ ④ ⑤

三界者則) + 三^④
②者^②也^③④
[者] - ①

(6) 又問、云何輕重、分之為六。

答曰、若有衆生不了正因、迷心順善、未免三界、生三輕趣。云何三輕。所為迷修十善、妄求快樂、未免貪界、生於六趣。迷持五戒、妄起愛增、未免曠界、生於人趣。迷執有為、信邪求福、未免癡界、生阿脩羅趣。如是三類、名三輕趣。云何三重。所謂縱三毒心、唯造惡業、隨三重趣。若食業重者、隨地獄趣、曠業重者、隨地獄趣、癡業重者、隨畜生趣。如是三重、

(6)

答曰、有衆生不了正因、迷心修善、未免三界、生作輕趣。云何三輕。所為迷修十善、妄求快樂、未免貪界、生於天趣。未持五戒、妄起愛增、未免曠界、生於人趣。迷執有為、傍取求福、未免癡界、生於阿修羅趣。如是三類、名為三輕趣。云何三種。所謂從三毒心、唯造惡業、隨三重趣。若食業重者、隨地獄趣、曠業重者、隨畜生趣、癡業重者、隨畜生趣、曠業重者、隨餓鬼趣。

(6) 又問、云何輕重、分之為六。

答曰、若有衆生不了正因、迷心修善、未免三界、生三輕趣。云何三輕。所為悉修十善、妄求快樂、未免貪界、生於六趣。悉持五戒、妄起愛增、未免曠界、生於人趣。迷執有為、信邪求福、未免癡界、生阿修羅。如見三類、名為三重。云何三重。所謂縱三毒心、唯造惡業、隨三重趣。若食業重者、隨餓鬼趣、曠業重者、隨地獄趣、癡業重者、隨畜生趣。如是三重、通前三

(6) 又問、云何輕重、分之為六。

答曰、若有衆生不了正因、迷心順善、未免三界、生三輕趣。云何三輕。所為迷修十善、妄求快樂、未免貪界、生於六趣。迷持五戒、妄起愛增、未免曠界、生於人趣。迷執有為、信邪求福、未免癡界、生阿脩羅趣。如是三類、名三輕趣。云何三重。所謂縱三毒心、唯造惡業、隨三重趣。若食業重者、隨餓鬼趣、曠業重者、隨地獄趣、癡業重者、隨畜生趣。如是三重、

(6)

答曰、有衆生不了正因、迷心脩善、未免三界、生三輕趣。云何三輕。所謂迷脩十善、忘求快樂、未免貪界、生於天趣。迷持五戒、忘起愛增、未免曠界、生於人趣。迷執有為、傍取求福、未免癡界、生阿脩羅趣。如是三類、名為三輕趣。云何三重。所謂縱三毒心、唯造惡業、隨三重趣。若食業重者、隨地獄趣、曠業重者、隨畜生趣、曠業重者、隨餓鬼界。

通前三輕、遂成六趣。故知一切善業、由自心生。但能攝心、離諸邪惡。三界六趣輪迴之苦、自然消滅、則名解脫。

- ①順||修(B)(C)(F)
- ②六||天(B)(F)

六趣輪迴之苦、自然消滅、能知離苦、即名解脫。

- ①(又問云何輕重分之為六) + 答
- (A)(C)(D)
- ②(若) + 有(A)(C)

- ③勉||免(A)(C)(D)(F)
- ④未||迷(A)(D)(F)
- ⑤傍取||信邪(A)(C)

- ⑥勉||免(A)(C)(D)(F)
- ⑦種||重(A)(C)(D)(F)
- ⑧從||縱(A)(C)(D)(F)
- ⑨苦||若(A)(C)(D)(F)
- ⑩(如是三重通前三輕遂成六趣故

知一切善業由自心生但能攝心離諸邪惡三界) + 六(A)(C)(D)

輕、遂成六趣。故知一切善業、由自心生。但能攝心、離諸邪惡。三界六趣輪迴之業、自然消滅、能滅諸苦、即名解脫。

通前三輕、遂成六趣。故知一切善業、由自心生。但能攝心、離諸邪惡。三界六趣輪迴之苦、自然消滅、諸苦、則名解脫。

- ①悉||迷(A)(B)(D)(F)
- ②六||天(B)(F)
- ③悉||迷(A)(D)(F)
- ④羅|| (趣) (A)(B)(D)(F)
- ⑤業||苦(A)(B)(D)(F)
- ⑥滅||離(F)

- ①(又問云何輕重分之為六) + 答
- (A)(C)(D)
- ②六||天(B)(F)
- ③(能離) + 諸(F)

- ②(若) + 有(A)(C)
- ③忘||妄(A)(B)(C)(D)
- ④忘||妄(A)(B)(C)(D)
- ⑤傍取||信邪(A)(C)

- ⑥(如是三重通前三輕遂成六趣故

知一切善業由自心生但能攝心離諸邪惡三界) + 六(A)(C)(D)

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

P 4646

(7)又問、如佛所說、我於三代阿僧祇劫、无量勤苦、乃成佛道。云何今說、唯除三毒、即名解脫。

答曰、佛說三世阿僧祇劫者、漢言不可數。此三毒心、於一念中、恒阿沙衆惡。一念中皆為一劫。恒河沙者、不可數也。真如之性、被三毒之覆障。若不超彼三世恒沙毒惡之心、云何得解脫也。今者能除貪瞋癡等三種毒心、是則名度得三世阿僧祇劫。來世衆生、愚癡鈍根、不解如來三種阿僧祇劫秘密之說、遂言成歷劫未期。豈不疑悟行人苦提道也。

龍谷本

(7)又問、如仏所説、我於三代阿僧祇劫、无量勤苦、方成仏道。云何今説、唯除三毒、即名解脫。

答曰、所言三毒、阿僧祇、漢言不可數。由此三毒心、於一心中、有恒沙惡念。於一念中、皆為一劫。恒沙者不可數也。以三毒惡念如三恒沙、故言不可數也。真如之性、即彼三毒之所覆障業、超彼大恒河沙毒惡之念、云何名為得解脫也。今者能除三毒之心、是則名為度得三大阿僧祇劫。末世衆生、愚癡下根、不解如來三大阿僧祇劫秘密之說、遂言成歴劫未期。豈不疑悟行人、退涅

S 2595 (T 85)

(7)又問、如佛所說、我於三代阿僧祇劫、无量勤苦、乃成佛道。云何今說、唯除三毒、即名解脫。

答曰、佛所說言、三大阿僧祇劫者、即三毒心也。胡言阿僧祇、漢言不可數。比三毒心、於一念中、皆為一切。恒河沙者、不可數也。真如之性、既被三毒之所覆障。若不超越彼三恒河沙毒惡之念、云何名得解脫也。今者能除貪瞋癡等三種毒心、是則名為度得三大阿僧祇劫。末世衆生、愚癡鈍根、不解如來三種阿僧祇秘密之說、遂言成歴劫未期。豈不疑悟行人、不退菩提。

S 5532

(7)又問、如佛所説、我於三代阿僧祇劫、无量勤苦、乃成佛道。云何今説、唯除三毒、即名解脫。

答曰、佛說三世阿僧祇劫者、漢言不可數。此三毒心、於一念中、恒河衆惡。一念中皆為一劫。恒河沙者、不可數也。真如之性、被三毒之覆障。若不超彼三世恒沙毒惡之心、云何得解脫也。今者能除貪瞋癡等三種毒心、是則名度得三世阿僧祇劫。來世衆生、愚癡鈍根、不解如來三種阿僧祇劫秘密之說、遂言成歷劫未期。豈不疑悟行人苦提道也。

S 646

(7)又問、如仏所説、我於三大阿僧祇劫、无量勤苦、方成仏道。云何今説、唯除三毒、即名解脫。

答曰、所言三阿僧祇、漢言不可數。此三毒心、於一心中、有恒沙惡念。於一々念中、皆為一劫。恒河沙者不可數也。以三毒惡念如三恒河沙、故言不可數也。真如之性、既被三毒之所覆障業、不超彼大恒河沙毒惡之念、云何名為得解脫也。今者能除三毒之心、是則名為度得三大阿僧祇劫。末世衆生、愚癡下根、不解如來三阿僧祇劫秘密之說、遂言成歴劫未期。豈不疑悟行人、退涅槃道

P 2490

P 2657

(8)又問、菩薩摩訶薩、由持三趣淨戒六波羅蜜、方成佛道。今令學者、唯只觀心、不脩戒行、云何成覺。
③趣淨戒者、則離三毒心、成无量善。趣會者也。以制三毒、即有三無碍善。普會於心。故名三趣淨戒也。六波羅蜜者、即六根。漢言達彼岸。以六根清淨則不染世塵、即出煩惱可、至善

P 4646

龍谷本

(8)又問、菩薩摩訶薩、由持三趣淨戒六波羅蜜、方成佛道。今行者、唯心觀心、不修戒行、云何成仏。
答曰、三聚淨戒、即制三毒心也。制一毒心、無量善住。聚者會。能制毒心、即有無量善。並會於心。故名三聚淨戒也。六波羅蜜者、即六根。是清淨不染也。塵。即是度煩惱何、至涅

S 2595 (T 85)

(8)又問、菩薩摩訶薩、由持三趣淨戒六波羅蜜、方成佛道。今令學者、唯須觀心、不修戒行、云何成。
聚會者。以能制三毒、即有三量善。普會於心。故名三聚淨戒也。波羅蜜者、即是梵言、漢言達彼岸。以六根清淨不染世塵、即出煩惱可、至菩提岸也。

S 5532

(8)又問、菩薩摩訶薩、由持三趣淨戒六波羅蜜、方成佛道。今令學者、唯只觀心、不脩戒行、云何成覺。
③趣淨戒者、則離三毒心、成无量善。趣會者也。以制三毒、即有三無碍善。普會於心、故名三趣淨戒也。六波羅蜜者、即六根。漢言達彼岸。以六根清淨則不染世塵、即出煩惱可、至善

S 646

(8)又問、菩薩摩訶薩、由持三聚淨戒六波羅蜜、方成佛道。今行者唯心觀心、不脩戒行、云何成仏。
答曰、三聚淨戒、即制三毒心也。制一々毒心、無量善聚。聚者會也。能制毒心、即有無量善。普會於心、故名三聚淨戒也。六波羅蜜者、即六根也。胡言波羅蜜、漢言達彼岸。以六

P 2460

P 2657

- ①代 大 B F
- ②世 大 C
- ③(有) 十恒 B F
- ④來 末 B C F
- ⑤成 + (仏) B F
- ⑥悟 悞 B F

- 槃道也。
- ①仏 + 道 A C D F
 - ②人 今 A C D F
 - ③(毒) 一 C
 - ④祇 + (者) A C D
 - ⑤(由) 一 A C D F
 - ⑥彼 被 A C D F
 - ⑦(不) 十超 F
 - ⑧末 未 A C D F
 - ⑨入 人 A C D F

- ①代 大 B F
- ②比 此 A B D F
- ③切 劫 A B D F
- ④成 + (仏) B F
- ⑤悟 悞 B F
- ⑥不退菩提 退涅槃道也 B F、菩提道也 A D

- ①代 大 B F
- ②世 大 C
- ③(有) 十恒 B F
- ④來 末 B C F
- ⑤成 + (仏) B F
- ⑥悟 悞 B F

- 也。
- ①三 + (大) C
 - ②祇 + (者) A C D
 - ③(一) 十劫 A B D
 - ④患 愚 A B C D
 - ⑤塵 歷 A C D、塵 + (沙) B

P 4646

提岸也。故名六波羅蜜。

龍谷本

槃岸。故名六波羅蜜也。

S 2595 (T 85)

故名六波羅蜜。

S 5532

提岸也。故名六波羅蜜。

S 646

P 2460

根清淨不染世塵，即是度煩惱河，至涅槃岸。故名六波羅蜜也。

P 2657

①趣||聚 F

②覺||仏 B F

③(答曰)十三 B F

④趣||聚 B F

⑤趣貪者也||聚者會也 F

⑥碍||量 B F

⑦趣||聚 B F

⑧根+(也) F

⑨可||河 F

①趣||聚 F

②心||只 A D

③(成) + 無 A D

④任||聚 F

④會+(也) F

⑥並||普 A C D F

⑦也||世 A C D F

⑧何||河 F

①(又問)菩薩摩訶薩由持三淨戒六波羅蜜 + 方

A B D F

②成+(仏) B F

③(三趣淨戒者則離三毒心成志 + 量 A D)

④會者||者會也 F

⑤(无) + 量 B F

⑥可||河 F

①趣||聚 F

②覺||仏 B F

③(答曰)十三 B F

④趣||聚 B F

⑤趣貪者也||聚者會也 F

⑥碍||量 B F

⑦根+(也) F

⑧可||河 F

(9)又問、如經所說三聚淨戒者、誓斷一切惡、誓脩一切善、誓度一切衆生。善、誓度一切衆生。者言制三毒心、豈不文義有所乖也。

答曰、佛所說三毒者、對於貪毒、誓斷一切惡、常脩戒。

對於嗔毒、誓脩一切善、對於貪毒、誓斷一切惡、常脩戒。對於嗔毒、誓脩一切善、對於貪毒、誓斷一切惡、常脩戒。

(9)又問、如經所說三聚淨戒者、誓斷一切惡、誓修一切善、誓度一切衆生。唯願。今言制三毒心、豈不久義有所乖也。

答曰、仏所說經是真實語、應无謬也。

等諸涅槃於道去內中、修之苦行時、

(9)又問、如經所說三聚淨戒者、誓斷一切惡、誓修一切善、誓度一切衆生。今言制三毒心、豈不文義有所乖也。

答曰、佛所說經是真實語、應无謬也。

菩薩於過去因中、修苦行時、對於三

(9)又問、如經所說三聚淨戒者、誓斷一切惡、誓脩一切善、誓度一切衆生。善、誓度一切衆生。者言制三毒心、豈不文義有所乖也。

答曰、佛所說三毒者、對於貪毒、誓斷一切惡、常修戒。

對於嗔毒、誓脩一切善、對於貪毒、誓斷一切惡、常修戒。對於嗔毒、誓脩一切善、故常修定。

(9)又問、如經所說三聚淨戒者、誓斷一切惡、誓脩一切善、誓度一切衆生。唯願。今言制三毒心、豈不久義有所乖也。

答曰、仏所說經是真實語、應无謬也。

等涅槃於道去因中、修苦行時、爲對三

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

切善、故常脩定。
對於癡毒、誓度一切衆生、常脩惠。
持如是戒定惠等三種淨法、故能超彼毒惡業報、成佛也。
以制三毒、則諸惡消滅、故名之為斷。
以能持三戒、則諸善具足、名之為戒。
以脩能斷、則万行成就、自他利己、普濟群生、故名為度。知所脩戒行、不離於心。若自清淨、則一切衆生皆悉清淨。故經云、心垢則衆生垢、心淨故一切功德悉皆清淨又云、欲得仏、當淨其心、隨其心淨、則佛土淨。若制得三種毒心、三聚淨戒自然成就。

為對三毒、發三誓願、持三聚淨戒。
對於貪毒、誓斷一切惡、故常修戒。
對於瞋毒、誓修一切善、故常修定。
對於癡毒、誓度一切衆生、故常修惠。
由持如是戒定惠等三聚淨戒、故能超彼岸。因三毒業、斷三毒惡、得成佛道。以能制三毒、則諸消滅、故名諸為斷。以能持三聚淨戒、則諸善具足、故名為修。以能斷淨戒、則万行成就、自他俱利、普濟群生、故名為度脫。故知所修戒行、不離於心。若自心清淨、則一切衆生皆悉清淨。故經云、心垢則衆生垢、心淨、則衆生淨。又經云、欲淨仏土、

毒、誓斷一切惡、常修戒。對於瞋毒、誓修一切善、故常修定。對於癡毒、誓度一切衆生、故常修惠。由持如是戒定惠等三種淨法、故能超彼三毒惡業、即成仏也。以制三毒、則諸惡消滅、故名之為斷。以能持三戒、則諸善具足、名之為佛。以脩能斷、則万行成就、自他利己、普濟群生、故名為度。既知所修戒行、不離於心。若自清淨、故一切功德悉皆清淨。又云、欲得淨佛云、當淨其心、隨其心淨、則佛土淨。若能制得三種毒心、三聚淨戒自然成就。

對於癡毒、誓度一切衆生、常修惠。持如是戒定惠等三種淨法、故能超彼毒惡業、成佛也。
以制三毒、則諸惡消滅、故名之為斷。
以能持三戒、則諸善具足、名之為戒。
以脩能斷、則万行成就、自他利己、普濟群生、故名為度脫。知所修戒行、不離於心。若自清淨、則一切衆生皆悉清淨。故經云、心垢則衆生垢、心淨故一切功德悉皆清淨。又云、欲得佛、當淨其心、隨其心淨、則佛土淨。若制得三種毒心、三聚淨戒自然成就。

毒、發三誓願、持三淨戒。對於貪毒、誓斷一切惡、故常修戒。對於瞋毒、誓脩一切善、故常脩定。對於癡毒、誓度一切衆生、故常修惠。由持如是戒定惠等三聚淨戒、故能超彼岸。因三毒業、斷三毒惡、得成仏道。以能制三毒、則諸惡消滅、故名之為斷。以能持三淨戒、則諸善具足、故名為脩。以能斷能脩、則万行成就、自他俱利、普濟羣生、故名為度脫。故知所脩戒行、不離於心。若自心清淨、則一切衆生皆迷清淨。故經云、心垢則衆生垢、心淨則衆生淨。又經云、欲淨仏土、當淨其心、隨其心

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

當淨其心、隨其心淨則仏土淨。若能制得三種毒心、三聚淨戒自然成就。

淨、則仏土淨。若能制得三種毒心、三聚淨戒自然成就。

①今十者C F

①(唯願) | A C D

①(故) 十常B F

①今十者C F

②故 十常B

②金 || 今C F

②戒 || 毒A B D F

②(不) | A B C F

③(故) 十常B C F

③久 || 文A C D

③佛 || 修B F

③(故) 十常B F

④(由) 十持B C F

④等諸涅槃於道去

④修能斷 || 能斷能

④(故) 十常B C F

⑤戒 || 修B F

內中 || 菩薩於過去

修B F

⑤(由) 十持B C F

⑥脩能斷 || 能斷能

去因中C

⑤自十(心)B F

⑥業十(報)A

修B F

⑤諸十(惡)A C D

⑥功德 || 衆生B F

⑦戒 || 修B F

⑦自十(心)B F

⑥諸 || 之A C D F

⑦云 || 土B F

⑦戒 || 修B F

⑧功德 || 衆生B F

⑥諸 || 之A C D F

⑧功德 || 衆生B F

⑧修能斷 || 能斷能

⑨自十(心)B F

⑦云 || 土B F

⑨自十(心)B F

⑩功德 || 衆生B F

⑩功德 || 衆生B F

⑩功德 || 衆生B F

⑩功德 || 衆生B F

⑩功德 || 衆生B F

(10)又問、如經所說

(10)又問、經云^①所說

(10)又問、如經中所

(10)又問、如經所說

六波羅蜜者、亦名

六波羅蜜者、六度

說六波羅蜜者、亦

六波羅蜜者、亦名

度。所為布施持

所謂布施持戒忍辱

名六度。所謂布施

度。所為布施持戒

戒忍辱精進禪定智

精進禪定智惠。今

持戒忍辱精進禪定

忍辱精進禪定智惠。

惠。今言六根清淨

言六根清淨名六波

智惠。今言六根清

今言六根清淨六波

六波羅蜜、若為通

羅蜜、若為通會。

淨六波羅蜜、若為

羅蜜、若為通會。

會。又六度者、其

六度者、其義云何。

通會。又六度者、

又六度者、其義云

義云何。

其義云何。

其義云何。

何。

答曰、欲脩六度、

答曰、願修六度、

答曰、欲修六度、

答曰、欲修六度、

當淨六根。欲淨六

當淨六根。先除六

當淨六根。欲淨六

當淨六根。欲淨六

答曰、欲脩六度、

當淨六根。先除六

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

先(A)(C)(D)

⑤因(固)(F)

⑥惱(格)(A)(C)(D)

⑦免(逸)(A)(C)(D)(F)

⑧疲(厭)(A)(C)

⑨願(欲)(A)(C)(F)

⑩嗔(順)(A)(C)(F)

(F)

④惱(格)(A)(C)(D)

⑨願(欲)(A)(C)(F)

⑩嗔(順)(A)(C)(F)

(H)又問、所說釋迦

如來為菩薩時、曾

飲三斗六升乳糜、

方成佛道。則如是

先因食乳、後證佛

果。豈唯觀心、得

解脫。

答曰、誠如所言、

無虛妄也。必因食

乳、然始成佛。言

食乳者、乳有二種。

佛所食者、非是世

間不淨之乳、乃是

真如清淨法乳。三

斗者、即是三聚淨

戒。六升者、即六

波羅蜜。成道時、

食如是法乳、方證

(H)又問、經云所說

言教、釋迦如來為

菩薩道時、當飲三

斗六升自乳糜、方

成仏道。即是先因

食乳、後證仏果。

豈唯觀心、得解脫。

答曰、誠如所言、

無虛妄也。必因食

乳、如成佛道。言

食乳者、有二種。

仏所食者、非是世

間不淨之乳、乃是

真如清淨法乳。三

斗者、即是三聚淨

戒。六升者、即是

六波羅蜜。仏成道

時、由食如是清淨

(H)又問、所說釋迦

如來為菩薩時、曾

飲三斗六升乳糜、

方成佛道。即是先

因食乳、後證佛果。

豈唯觀心、得解脫

也。

答曰、誠如所言、

無虛妄也。必因食

乳、然始成佛。佛

言食乳、乳有二種。

佛所食者、非世間

不淨之乳、乃是真

如清淨法乳。三斗

者、即是三聚淨戒。

六升者、即是六波

羅蜜。成佛道時、

食如是法乳、方證

(H)又問、經云所說

言、釋迦如來為菩

薩時、當飲三斗六

升乳糜、方成仏道。

即是先因食乳、後

證仏果。豈唯觀心、

得解脫。

答曰、誠如所言、

無虛妄也。必因食

乳、如成仏道。言

食乳者、乳有二種。

仏所食者、非是世

間不淨之乳、乃是

真如清淨法乳。三

斗者、即三聚淨戒。

六升者、即六波羅

蜜。仏成道時、由

食如是清淨法乳、

(H)□□□□□□□□

□□□□來為菩薩時、

曾飲三斗六升乳□

□□□□□□□□

□□□□後證仏果。豈

唯觀心、得解□。

□□□□□□□□虛

妄也。必因食乳

□□□□□□□□

□□□□

□□□□

□□□□

□□□□

□□□□

□□□□

□□□□

□□□□

□□□□

乃是

□□□□方證仏果。

P 4646

- ③誠||成C
- ④悟||悞B F C
- ⑤(經)十所B F
- ⑥敏||擊C F
- ⑦〔清淨〕—|B C D
- ⑧中||牛B F C
- ⑨真||直F

龍谷本

- ③方澄||方證仏果
- ④糞服||糞腥A C
- ⑤善||苦C F G
- ⑥薩須還而速||豈須如是C G
- ⑦觸||渴A C F
- ⑧云||所A C
- ⑨米||糠A C D
- ⑩恰慙||憐愍C
- ⑪真||直F
- ⑫皆+(得) C D

S 2595 (T 85)

- ③(經)十所B F
- ④中||牛B F G
- ⑤真||直F

S 5532

- ③真||直F

S 646

P 2460

- ③云||所A C
- ④糠麩||糟糠麩豆
- ⑤於||憐A C D

P 2657

- ③真||直F

⑫又問、經中所說、佛衆生修伽藍、鑄形像、燒香散花、然長明燈、晝夜六時、遶塔行道、持齋禮拜、種種功德、皆成佛道。若唯觀心惣攝諸行、說如是事、應虛妄。

答曰、佛所說、有無量方便。以一切衆生鈍根狹劣不悟

⑫又問、經云說、仏令衆生修造伽藍、鑄寫形像、燒香散花、然長明燈、晝夜六時、遶塔行道、持齋礼仏、種々功德、皆成仏道。若唯觀心惣攝諸行、說如是事、豈不虛妄也。

答曰、喻說經云、無量方便、以一切衆生鈍根狹劣不悟

⑫又問、經中所說、佛言、衆生修伽藍、鑄形像、燒香散花、然長明燈、晝夜六時、遶塔行道、持齋禮拜、種種功德、皆成佛道。若唯觀心惣攝諸行、如是事、應妄也。

答曰、佛所說、無量方便。一切衆生鈍根狹劣甚深、所

⑫又問、經中所說、佛衆生修伽藍、鑄形像、燒香散花、然長明燈、晝夜六時、遶塔行道、持齋禮拜、種種功德、皆成佛道。若唯觀心惣攝諸行、說如是事、應虛妄也。

答曰、佛所說、有無量方便。以一切衆生鈍根狹劣不悟

⑫又問、經說、仏令衆生修造伽藍、鑄寫形像、燒香散花、然長明燈、晝夜六時、遶塔行道、持齋禮拜、種々功德、皆成仏道。若唯觀心惣攝諸行、說如是事、豈不虛妄也。

答曰、所說經無量方便、一切衆生鈍根狹劣不悞甚深、

⑫問、經說、令仏衆生修造伽藍、鑄寫形像、燒香散花、燃長明燈、晝夜六時、□□行道、持齋禮拜、種々功德、皆成仏道。若唯觀心惣攝諸行、□□事、豈非妄虛也。

答曰、所說經無量方便、以一切衆生鈍根狹劣不悞甚深、

甚深、所以假有為法喻無為。若不內行、唯只外求、希望獲福、无有是處。言伽藍者、西國梵音、此智翻為清淨處。若永除三毒、常淨六根、身心湛然、內外清淨、是則名為修伽藍。

又鑄形像者、即是一切衆生求佛道。所為修所覺行、防像如來。豈遣鑄寫金銅之作也。是故求解脫者、以身為鑪、以法為火、智惠為功匠、三聚淨戒為六波羅蜜、以畫樣、鎔鍊身中真如佛性、遍入一切戒律模中、如故奉行、以充缺漏、自然成就真容之像。所謂究竟常住微妙色身、非有為敗壞

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

其深、所以假有為事、喻無為理。復不修內行、唯心外求、望獲福利、無有處。言伽藍者、西國梵音、此地翻為清淨之處。若永除三毒、常淨六根、身心湛然、內外清淨、是則名為修伽藍也。

鑄形像者、即是一切衆生為求解脫也。所謂修諸覺行、防像如來。豈遣鑄寫金銅之作也。是故求解脫者、以身為鑪、以法為火、智惠為功匠、三聚淨戒為六波羅蜜、以畫樣、鎔鍊身中真如佛性、遍入一切戒律模中、如故奉行、以充缺漏、自然成就真容之像。所謂究竟常住微妙法身、非是有為敗

以假有為喻無為。若不內行、唯只外求、希望獲福、无有是處。言伽藍者、西國梵音、此地翻為清淨處地。若永除三毒、常淨六根、身心湛然、內外清淨、是名為修伽藍也。

又鑄形像者、即是一切衆生求佛道。所為修諸覺行、防像如來。豈遣鑄寫金銅之作也。是故求解脫者、以身為鑪、以法為火、智惠為功匠、三聚淨戒為六波羅蜜、以畫樣、鎔鍊身心真如佛性、遍入一切戒律模中、如故奉行、以充缺漏、自然成就真容之像。所謂究竟常住微妙色身、非有為敗壞

甚深、所以假有為、喻無為。若不內行、唯只外求、希望獲福、无有是處。言伽藍者、西國梵音、此地翻為清淨處也。若永除三毒、常淨六根、身心湛然、內外清淨、是則名為修伽藍。

又鑄形像者、即是一切衆生求佛道。所為修諸覺行、防像如來。豈遣鑄寫金銅之作也。是故求解脫者、以身為鑪、以法為火、智惠為功匠、三聚淨戒為六波羅蜜、以畫樣、鎔鍊身中真如佛性、遍入一切戒律模中、如故奉行、以充缺漏、自然成就真容之像。所謂究竟常住微妙色身、非有為敗壞

所以假有為事、喻無為理。復不脩內行、唯心外求、希望獲福、无有是處。言伽藍者、西國梵音、此地翻為清淨之處。若永除三毒、常淨六根、身心湛然、內外清淨、是則名為脩伽藍也。

又鑄形像者、即是一切衆生求解脫也。所謂脩諸覺行、放像如來。豈唯鑄寫金銅之作也。是故求解脫者、以身為鑪、以法為火、智惠為功匠、三聚淨戒為六波羅蜜、以畫樣、鎔鍊身中真如佛性、遍入一切戒律模中、如故奉行、以充缺漏、自然成就真容之像。所謂究竟常住微妙色身、非是有為敗

所以假有為事、喻無為理。復不脩內行、唯心外求、希望獲福、无有是處。言伽藍者、西國梵音、此地翻為清淨處也。若永除三毒、常淨六根、身心湛然、內外清淨、是則名為脩伽藍也。

又鑄形像者、即是一切衆生求佛道也。所謂脩諸覺行、放像如來。豈唯鑄寫金銅所作也。是故求解脫者、以身為鑪、以法為火、智惠為功匠、三聚淨戒為六波羅蜜、以畫樣、鎔鍊身中真如佛性、遍入一切戒律模中、如故奉行、以充缺漏、自然成就真容之像。所謂究竟常住微妙色身、非是有為敗壞之法。若人

P 464d

之法。若人求道、不解如是鑄寫真容、憑何輒然言成就功德。

又燒香者、亦非世間有相之香、乃是無為正法香也。薰諸穢惡、悉令消滅。其正法香、有五種體。一者戒香、所謂能斷諸惡、能修諸善。二者定香、所謂決定大乘、心不退轉。三者惠香、所謂常於身心、內外觀察。四者解脫香、所謂能斷一切無明結縛。五者解脫知見香、所謂覺照常通無礙。如是五者香、世間无以佛在世日、令諸弟子、以智惠火燒如是无價寶香、供養十方一切諸佛。今時衆生、愚癡鈍根、不解如來真實

龍谷本

壞之法。若人求道、不解如是鑄寫真容、憑何言輒成就功德也。

又燒香者、亦非世間有想諸香、之是無為正法香。薰諸鼻穢无以惡業、悉令消滅。其正法香、有五種體。一者戒香、能斷諸惡、能修諸善。二者定香、所有決信大乘、心不退封。三者惠香、所謂常於身心、內外觀察。四者解脫香、所謂能斷一切無明結縛。五者解脫智見香、所謂覺照常明、通達無碍、知見種々、名最香世間无比。仏在世日、令諸弟子、以智惠火常燒如是无價寶香、供養十方一切諸仏。今時衆生、遇鈍癡根、不

S 2595 (T 86)

之法。若人求道、不解如是鑄寫真容、憑何輒言成就功德。

又燒香者、亦非世間有相之香、乃是無為正法香也。薰諸穢惡業、悉令消滅。其正法香、有五種體。一者戒香、所謂諸惡能斷、能修諸善。二者定香、所謂決信大乘、心不退轉。三者惠香、所謂常於身心、內外觀察。四者解脫香、所謂能斷一切無明結縛。五者解脫知見香、所謂覺照常通達無明礙。如是五香、世間无以佛在世日、令諸子、以智惠火燒如是无價香、供養十方一切諸佛。今時衆生、愚癡鈍根、不解如來真實之義、

S 5532

之法。若人求道、不解如是鑄寫真容、憑何輒然言成就功德。

又燒香者、亦非世間有相之香、乃是無為正法香也。薰諸穢惡、悉令消滅。其正法香、有五種體。一者戒香、所謂能斷諸惡、能修諸善。二者定香、所謂決定大乘、心無退轉。三者惠香、所謂常於身心、內外觀察。四者解脫香、所謂能斷一切無明結縛。五者解脫知見香、所謂覺照常通無礙。如是五者香、世間无以佛在世日、令諸弟子、以智惠火燒如是无價寶香、供養十方一切諸佛。今時衆生、愚癡鈍根、不解如來真實

S 646

壞之法。若人求道、不解如是鑄寫真容、憑何輒言成功功德也。

又燒香者、亦非世間有相之香、乃是無為正法香。薰諸鼻穢无以惡業、悉令消滅。其正法香、有五種體。一者戒香、所謂能斷諸惡、能脩諸善。二者定香、所有決信大乘、心无退轉。三者惠香、所謂常於身心、內外觀察。四者解脫香、所謂能斷一切無明結縛。五者解脫知見香、所謂覺照常明、通達無礙、知見種々、名最香世間无比。仏在世日、令諸弟子、以智惠火常燒如是无價寶香、供養十方一切諸佛。今時衆生、愚癡鈍根、

P 2400

求道、不解如是鑄寫真容、憑何輒言成功功德也。

又燒香者、亦非世間有相之香、乃是無為正法香也。薰諸鼻穢无以惡業、悉令銷滅。其正法香者、有五種體。一者戒香、所謂能斷諸惡、能脩諸善。二者定香、所謂決信大乘、心无退轉。三者惠香、所謂常於一心、內外觀察。四者解脫香、所謂能斷一切無明結縛。五者解脫知見香、所謂覺照常明、通達無礙、知見種々、真如法性、名最上香世間門无比。仏在世日、令諸子、以智惠火常燒如是无價寶香、供養十方一切諸佛。今時衆生、愚癡鈍根、

P 2657

又問長明燈者，即 正心覺也。智惠明 P 4646	之義，唯將外火， 燒於世間沈檀薰陸 質碍之香者。希望 福報，云何可得。 又散花者，義亦如 是。所謂演說正法、 說功德者，饒益有 情，散露一切，於 真如性，普施莊嚴。 此功德花，也佛所 稱歎，究竟常住， 无彫落期。若復有 人，散如是花，獲 福无量。若令諸衆 生，剪截綸綵，復 損草木，以為散花， 无有是處。所以者 何。持戒者，於諸 大地參羅万象，不 令觸犯。悞觸犯者， 獲大罪。况復今者， 故毀戒，傷損万物， 求於福報，欲益反 損。豈有是乎。	解如來真 質碍諸香。布堅福 寶，云何可得。 又散花香者，亦如 是。所演說正法、 流諸功德，饒益有 情，散露一切，於 真如性，普是莊嚴。 此功德花，仏所稱 歎，究竟常住，无 彫落期。若復有人， 散如是花，獲福无 量。若有如來，令 諸衆生，剪截僧採， 傷損草木，以為散 花，无有是處。所 以為散何。持淨戒 者，諸大地參羅万 象，不令觸犯。若 有犯者，猶獲大罪。 况復今者，故疑禁 戒，傷損万物，求 於福寶，欲善及損。 豈有事乎。	唯將外火，燒於世 間沈檀薰陸質碍之 香者。希望福報， 云何可得。 又散花者，義亦如 是。所謂演說正法、 說功德花，饒益有 情，散露一切，於 真如性，普施莊嚴。 此功德花，佛所稱 歎，究竟常住，无 彫落期。若復有人， 散如是花，獲福无 量。若如來令諸衆 生，剪截綸綵，復 損草木，以為散花， 无有是處。所以者 何。持淨戒者，於 諸大地參羅万象， 不令觸犯。悞觸犯 者，獲大罪。况復 今，故毀禁戒，傷 損万物，求於福報， 欲益返損。豈有是 乎。
又問長明燈者，即正 覺心也。智明了， 龍谷本 S 2595 (T 85)	之義，唯將外火燒 於世間沈檀薰陸質 碍之香者。希望福 報，云何可得。 又散花者，義亦如 是。所謂演說正法、 說功德花，饒益有 情，散露一切，於 真如性，普施莊嚴。 此功德花，也佛所 稱歎，究竟常住， 无彫落期。若復有 人，散如是花，獲 福无量。若令諸衆 生，剪截綸綵，復 損草木，以為散花， 无有是處。所以者 何。持戒者，於諸 大地參羅万象，不 令觸犯。悞觸犯 者，獲大罪。况復 今，故毀禁戒，傷 損万物，求於福報， 欲益返損。豈有是 乎。	於世間沈檀薰陸質 碍之香者。希望福 報，云何可得。 又散花者，義亦如 是。所謂演說正法、 說功德花，饒益有 情，散露一切，於 真如性，普施莊嚴。 此功德花，佛所稱 歎，究竟常住，无 彫落期。若復有人， 散如是花，獲福无 量。若如來令諸衆 生，剪截綸綵，復 損草木，以為散花， 无有是處。所以者 何。持淨戒者，於 諸大地參羅万象， 不令觸犯。悞觸犯 者，獲大罪。况復 今，故毀禁戒，傷 損万物，求於福報， 欲益返損。豈有是 乎。	又問燈者，即正心 覺也。以智惠明了， S 5532
又問長明燃燈者， 即正心覺也。智惠 S 646	不解如來真實之義 唯將外火燒於世間 沈檀薰陸質碍之香 希望福報，云何可 得。又散花者，亦 如是。所演說正法、 流諸功德，饒益有 情，散露一切，於 真如性，普施莊嚴。 此功德花，也佛所 稱歎，究竟常住， 无彫落期。若復有 人，散如是花，獲 福无量。若令諸衆 生，剪截綸綵，傷 損草木，以為散花， 无有是處。所以為 散散花何。持淨戒 者，諸大地參羅万 象，不令觸犯。若 有犯者，猶獲大罪。 况復今者，故毀禁 戒，傷損万物，求 於福報，欲益及損。 豈有是乎。	於世間沈檀薰陸質 碍之香者。希望福 報，云何可得。 又散花者，義亦如 是。所謂演說正法、 說功德花，饒益有 情，散露一切，於 真如性，普施莊嚴。 此功德花，佛所稱 歎，究竟常住，无 彫落期。若復有人， 散如是花，獲福无 量。若如來令諸衆 生，剪截綸綵，復 損草木，以為散花， 无有是處。所以者 何。持戒者，於諸 大地參羅万象，不 令觸犯。悞觸犯 者，獲大罪。况復 今，故毀禁戒，傷 損万物，求於福報， 欲益反損。豈有是 乎。	又問長明燃燈者， 即正心覺也。以覺智 P 2460
又長明燈等者，即 正覺心也。以覺智 P 2657	來生，愚癡鈍根， 不解如來真實之義 唯將外火燒於世間 沈檀薰陸質碍之香 希望福報，云何可 得。又散花，所謂 演說正法，諸功德 花，饒益有情，散 露一切，於真如性， 普施莊嚴。此功德 花，也佛所稱。究 竟常住，無彫落期。 若復有人，散如是 花，獲福无量。若 言如來令諸衆生， 前截綸綵，傷損草 木，以為散火，無 有是處。持淨戒者， 諸大地參羅万象， 不令觸犯。若有犯 者，猶獲大罪。况 復今者，故毀禁戒， 傷損万物，求於福 報，欲益及損。豈 有是乎。	於世間沈檀薰陸質 碍之香者。希望福 報，云何可得。 又散花者，義亦如 是。所謂演說正法、 說功德花，饒益有 情，散露一切，於 真如性，普施莊嚴。 此功德花，佛所稱 歎，究竟常住，无 彫落期。若復有人， 散如是花，獲福无 量。若如來令諸衆 生，剪截綸綵，復 損草木，以為散花， 无有是處。所以者 何。持淨戒者，於 諸大地參羅万象， 不令觸犯。悞觸犯 者，獲大罪。况復 今，故毀禁戒，傷 損万物，求於福報， 欲益反損。豈有是 乎。	又長明燈者，即正 覺心也。以覺智

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

了、喻之為燈。是故一切求解脫者，常以身為燈臺、心為燈蓋、信為燈炷、增諸戒行、以為添油。智惠明達、論如燈火常然。如是真如正覺燈、照破一切癡暗。能以此法、轉相開悟、即是一燈、然百千燈。以一燈續明、明終不盡、以無盡故、号曰長明。過去有佛、名為燃燈、義亦如是。愚癡衆生、不會如來方便之說、專行虛妄、執着有為、遂然世間蘇油乃燈、以照一室、之稱依教。豈不謬乎。所以者何。佛放眉間一毫之光、尚照於八万千界。若身光盡照、普遍十方。豈假如是世俗之燈、以為利益。

喻之為燈。是故一切求解脫者。常以身為通達、身為燈臺、心為燈蓋、信者燈炷、增諸戒行、以為添油。智惠明達、喻如光常然。如是真如正覺諸燈、照破一切无明癡暗。能以此法、對相覺悟、即一燈然百千燈、以續明、明終不盡也。以無盡故、号曰長明燈。過去有佛、名曰燃燈、義亦如是。愚癡衆生、不會如來方便之說、專行虛妄、執着有為、遂然世間蘇油諸燈、以照空室、乃稱依教。豈不謬也。所以者何。佛放眉間一毫之光、常能照於万八千世界。若身光盡照、則普遍十方。豈假如是世俗之證、以

喻之為燈。是故一切求解脫者。常以身為燈臺、心為燈蓋、信為燈炷、增諸戒行、以為添油。智惠明達、喻燈火常然。如是真如正覺燈、明破一切无明癡暗。能以此法、轉相開悟、即是一燈、然百千燈、以燈續明、明終不盡。以無盡故、号曰長明。過去有佛、名曰燃燈、義亦如是。愚癡衆生、不會如來方便之說、專行虛妄、執着有為、遂然世間蘇油之燈、以照一室、乃稱依教。豈不謬乎。所以者何。佛放眉間一毫相光、上照万八千世界。若身光盡照、普遍十方。豈假如是世俗之燈、以為利益。詳察斯

明了、喻之為燈。是故一切求解脫者，常以身為燈臺、心為燈蓋、信為燈炷、增諸戒行、以為添油。智惠明達、喻如燈火常然。如是真正覺燈、照破一切无明癡暗。能以此法、轉相開悟、即是一燈、然百千燈、以燈續明、明終不盡也。以無盡故、故号曰長明。過去有佛、名曰燃燈、義亦如是。故燃七燈者、轉動、七識流轉、七七四九、燃四九燈、口除身中雜染種子、口口通无碍。愚癡衆生、不會如來方便之說、專行虛妄、執着有為、遂然世間蘇油之燈、

了、喻之為燈。是故一切求解脫者，常以身為通達、身喻燈臺、心為燈蓋、信為燈炷、增諸戒行、以為添油。智惠明達、喻如燈光常然。如是真正覺燈、照破一切无明癡暗。能以此法、轉相開覺悟、即是一燈、然百千燈、以燈續明、明終不盡也。以無盡故、故号曰長明。過去有佛、名曰燃燈、義亦如是。愚癡衆生、不會如來方便之說、專行虛妄、執着有為、遂然世間蘇油之燈、

明了、喻之為燈。是故一切求解脫者，常以身為通達、身喻燈臺、心為燈蓋、信為燈炷、增諸戒行、以為添油。智惠明達、喻如燈光常然。如是真正覺燈、照破一切无明癡暗。能以此法、轉相覺悟、即是一燈、然百千燈、以燈續明、終无盡也。以妄染盡故、故曰長明。過口有仏、名為燃燈、義亦如是。故燃七燈者、轉動、七識流轉、七七四九、燃四九燈、口除身中雜染種子、口口通无碍。愚癡衆生、不會如來方便之說、專行虛妄、執着有為、遂然世間蘇油之燈、

詳察斯理、應不然
乎。
為利益。審察斯理、
應不然也。
理、應不然乎。

如是世俗之燈、以
為利益。審察斯理、
應不然也。
以照空室、乃稱依
教。豈不謬乎。所
以者何。仏放眉間
一毫之光、□□□
□万八千界。若身
光盡照、則普遍十
方。豈假如是世□
□□、以為利益。
審察斯理、應不然
也。

又問六時行道者、
所為六根之中、於
一切時、常行佛道。
者覺也。即是修諸
覺行、調伏六根六
情、淨行長時不捨
名六時行道。
塔者身也。常令覺
惠巡遶身心、念念
不停、名為遶塔。
過去聖僧、如是行
道、即得涅槃。求
解脫者、不會斯理、
何名行道。竊見今
時鈍根之輩、曾無
內行、唯執外求、
將質碍身、遶世間

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

又六時行道者、所
謂六根諸中一切時、
常行仏道。者覺也。
即修諸調伏、六根
清淨、行往坐臥、
長時不捨、名六時
行道。
塔者身也。常令覺
惠巡遶身心、念念
不停、名為遶塔。
過去諸聖、曾得此
行道、至涅槃。求解
脫者、不會其理、
何名行道。竊見今
時鈍諸輩、曾無內
行、唯執外求、將
質碍身、遶世間塔、
求、將質碍身、遶

又六時行道者、所
為六根之中、於一
切時、常行仏道。
者覺也。即是修諸
覺行、調伏六情、
淨行長時不捨、名
六時行道。
塔者身也。常令覺
惠巡遶身心、念念
不停、名為遶塔。
過去聖僧人、如是
行道、得涅槃。求
解脫者、不會斯理、
何名行道。竊見今
時鈍根之輩來生、
曾未內行、唯執外
求、將質碍身、遶

又六時行道者、所
謂六根之中、一切
時、常行仏道。仏
者覺也。即修諸覺
行、調伏六根清淨、
行住坐臥、長時不
捨、名六時行道。
塔者身也。常令覺
惠巡遶身心、念念
不停、名為遶塔。
過去諸聖、曾此道、
得至涅槃。求解脫
者、不會斯理、何
名行道。竊見今時
鈍根之輩、曾無內
行、唯執外求、將
質碍身、遶世間塔、

P 2460

又六時行道者、所
謂六根之中、一切
時、□行仏道。仏
者覺也。即是脩諸
□行、□□六根、
清淨行長時不捨、
名六時行道。
塔者身也。□令覺
惠巡遶身心、念念
不停、名為遶塔。
過去諸聖、曾行此
道、得至涅槃。求
解脫者、不會斯理、
何名行道。竊見今
時鈍根之輩、憎脩
內行、唯執外求、
將質碍身、遶世間

P 2657

如是五味清淨食、躬持齋者、无有是處。言斯食、於無明惡業之食。若轉讀者破齋、云何獲福。或有迷愚、不斯道理、身心放逸、諸惡皆為、貪慾恣情、了无慙愧。唯斷外道食、自謂持齋、何異癡人見爛壞死屍、稱言有命、必无是處。

如是五淨食者、言持齋者、无有是處。言斷食者、斷於無明惡業諸食。若輒觸者、名為破齋破戒。云何獲福。或有迷愚、不悟其理、放免諸惡皆為、貪慾願情、不生慙愧。唯斷外食、自謂持齋、何以癡人見爛壞死屍、拜其有命、无有是處。

清淨食、外持齋者、无有是處。言斯食者、於无明惡業之食。若轉讀者破齋、云何獲福。或有迷愚、不會斯理、身心放逸、諸惡皆為、貪慾恣情、了无慙愧。唯斷外食、自謂持齋、何異癡人見爛壞死屍、稱言有命、必死見事。

五味清淨食、躬持齋者、无有是處。言斯食、於天明惡業之食。若轉讀者破齋者、云何獲福。或有迷愚、不斯道理、身心放逸、諸惡皆為、貪慾恣情、了无慙愧。唯斷外食、自謂持齋、何異癡人見爛壞死屍、稱言有命、必無是處。

又禮拜者、當須如法也。必須理體內、明、隨事權變。理恒不捨、事有行藏。會如是義、乃名如法禮拜。夫礼者敬也。拜者伏也。所為恭敬真性、屈伏无明、名為禮拜。以恭敬不敢毀傷。以屈伏无令縱逸。若能諸惡永滅、善念恒存、雖不見相、常名禮拜。其事法

又禮拜者、當如法拜也。必須理体内、事隨獲變。裏恒不捨、事有行藏。會如是義、乃名如法。失礼拜者敬也。者伏也。所為恭敬真性、屈伏无明、名明為禮拜。以恭敬故、不毀傷。以屈伏故、无令放逸。若能惡情永滅、善念恒存、雖不現相、常名禮拜。其

又禮拜者、當如法也。必須理体内、隨事推變。理恒不捨、事有行藏。會如是義、乃名如法。夫礼者敬也。拜者所為恭敬真性、屈伏无明、為禮拜也。以恭敬故、不敢毀傷。以屈伏故、无令縱逸。若能惡情永斷、善念恒存、雖不見相、常名禮拜。其事法

又禮拜者、當須如法也。必須理体内、明、隨事〔斷欠〕

五淨食者、言持齋、无有是處。言斷食者、斷於无明惡業之食。若輒觸者、名為破齋破戒。云何獲福。或有迷愚、不悟期理、放逸諸惡皆為、貪慾恣情、不生慙愧。唯斷外食、自謂持齋、何以癡人見爛壞死屍、拜其有命。无有是處。

五種淨食、言持齋者、无有是處。言斷食者、斷於無明惡業之食。若輒觸者、名為破齋破戒。云何獲福。或有迷愚、不悟、于心放逸諸惡皆為、貪慾情所染着、不生慙愧。唯斷外食、自謂持齋、何以癡人見爛壞死屍、拜其有命。必无是事。

P 4646

龍谷本

S 2596 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

P 464b

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

即身相也。欲令諸世俗表謙下心，故須屈伏外，心恭敬。用之則顯，捨之則藏。覺內明外，以相應也。若復不行理法，唯執事門，內則故縱貪癡，常為惡業，外則空現身相，何名禮拜。无慙於聖，徒誑於凡，不免淪墜。豈成功德。既无所得，云何求道。

事法者即身相。為願令諸世俗裁謹心，故不須屈伏身，外亦恭敬相。諸則顯，捨諸則藏。舉外明內，以相應也。若能不行理法，唯執事門，內則故縱貪癡，常為惡業，外則空理相現，何名禮拜。无慙愧於聖，徒誰於己，不勉論墜。豈成功德。既无所得，六何求道。

者，即身相也。為欲令諸世俗表謙下心，故須屈伏外，心示恭敬相。用之則顯，捨之則藏。覺外明內，以相應也。若復不行理法，唯執事門，內則故縱貪癡，常為惡業，外則空現身相，何名禮拜。无慙於聖，縱誑於凡，不免淪墜。豈成功德。既无所得，云何救道。

事法者，即身相。為欲令諸世俗裁謹下心，故須屈伏身，外亦恭敬相。之則顯，捨之則藏。舉外明內，以相應也。若能不行理法，唯執事門，內則故縱貪癡，常為惡業，外則空理現相，何名禮拜。無慙愧於聖，徒誰於己，不免淪墜。豈成功德。既无所得，云何求道。

拜。其事法者，即身相也。為欲令諸世俗裁謙下心，故須屈伏身，外亦恭敬內相。用之則顯，捨之則藏。舉外明內，以相應也。若復不行理法，唯執事門，內則故縱貪癡，常為惡業，外則空理現相，何名禮拜。无慙愧於聖，徒自誑於己，身不免淪墜。豈成功德。既无功德，云何求道。

又造翻數珠念仏者，其惟福也。所謂數珠者六根也。一根起，染六處。俱轉六々卅六軍賊為貪，卅六為嗔，卅六為癡，以成三毒。今為一百八煩惱。若能覺了，觀照身心功用，念々連珠，心无染着，不起不

①佛十(言)C 佛十
(令)B F
②防||放F G
③為六波羅蜜以畫
樣||六波羅蜜以
為畫樣C G
④畫||模F G
⑤充||无B C F G
⑥常通无礙||常明

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

①經云說||經說F G
經中所說A C D
②喻說經云||所說
經F G, 佛所說C
佛所說有A D
③其||甚A C D F
G
④有+(是)A C D
F G

①言||令B F
②(有)十无A D
③(以)十一A B D
F G
④不悟+甚A B D
⑤地||也D G
⑥防||防A, 放F
G

①佛十(言)C
佛十(令)B F
②防||防A, 放F
G
③為六波羅蜜以畫
樣||六波羅蜜以
為畫樣C G
④畫||模F G
⑤充||无B C F G

①悞||悟A B D
②放||防A
③(為)一G
④(一)十性A B C
D C
⑤故||教A C D
⑥身+(心)B
⑦以||明 破相論
⑧有||謂A C C D C D

①令仏||仏令B F
②悞||悟A B D
③放||防A
④地||切A B C D F
⑤故||教A C C D
⑥身+(心)B
⑦以||明 破相論
⑧(真如法性)一A
B C C D F

動。今於體性、造
四九尺長、翻者謂
七識也。一識轉動、
七處隨轉、故七々
四九也。方便使翻
七識、轉入寂靜、
即法海湛然、息風
滅波、惠水長流、
內外明淨、即虛通
无碍、令如來性真
如湛寂。時人愚迷、
不會聖意、費損綸
綵、身外念仏、求
於福惠、非所應也。
若能俱持、亦是衆
生之所少善也。若
是行人必須內求、
外无益也。

P 464b

龍谷本

S 2595 (T 88)

S 5532

S 646

P 2480

P 2657

通達无礙(B)(F)(G)

5甚||湛(A)(C)(D)(F)

8常通達无明礙||
常明通達无礙(B)

6常通无礙||常明
通達无礙(B)(F)(G)

9壇||樓(A)(B)(C)(D)

9[門]||一(A)(B)(C)(D)

7(者)||一(C)

6(一)||一(A)(C)(D)(F)

7(者)||一(C)

7(者)||一(C)

10(義)||十亦(A)(C)(D)

10花+(者)(A)(B)(C)

8(以)||一(B)(C)(F)(G)

G

8(以)||一(B)(C)(F)(G)

8(以)||一(B)(C)(F)(G)

11所+(謂)(A)(C)(D)

11諸||說(C)

9復||傷(B)(F)(G)

7故||教(A)(C)(D)

9諸+(弟)(A)(B)(D)

9復||傷(B)(F)(G)

12流||說(A)(C)(D)

12欺稱||稱欺(A)(B)

10(禁)||十戒(B)(C)(D)

8无缺遍||一无缺

10復||傷(B)(F)(G)

10(者)||一(A)(B)(C)(F)

13所以||餘散花何||
所以者何(A)(C)(D)

13前||剪(A)(B)(C)(D)

11(問)||一(B)(F)(G)

9言輒||輒言(C)(F)

11今+(者)(A)(B)(F)

11今+(者)(A)(B)(F)

14(於)||十諸(A)(C)(D)

14火||花(A)(B)(C)(D)

12切+(無明)(B)(C)

G

12返||反(A)(D)

G

15今||合(A)(B)(C)(D)

15處+(所以者何)(A)(C)(D)

13(問)||一(B)(C)(F)(G)

10想||相(A)(C)(D)(F)

13(問)||一(B)(F)(G)

12(問)||一(B)(F)(G)

16呪傷||况復(A)(B)

16及||反(A)(D)、返

14(仏)||十者(F)(G)

11諸||之(A)(C)(D)(F)

15上||尚(A)(F)

15上||尚(A)(F)

17及||反(A)(D)、返

17(等)||一(A)(B)(C)(D)

15當意達其理||當
須會意不達其理

G

14明||照(A)(B)(F)(G)

13當意達其理||當
須會意不達其理

18[身為通達]||一(A)

18[身為達]||一(A)(C)

16愍||整(C)(G)

12鼻||鼻(F)(G)

17(人)||一(A)(B)(F)(G)

14愍||整(C)(G)

19真+(如)(A)(B)(C)

19解||戒(A)(B)(C)(D)

17謂+(於諸)(B)(F)

14(所謂)||十能(A)(C)

18(衆生)||一(A)(B)(F)

15謂+(於諸)(B)(F)

20忘||妄(A)(B)(C)(G)

20真+(如)(A)(B)(C)

18諸||如(B)(C)(F)(G)

15有||謂(A)(C)(D)(F)

19悟||悞(A)(B)(G)

16諸||如(B)(C)(F)(G)

21通||過(A)(C)(G)

21[身為達]||一(A)(C)

19(持)||十齋(B)

G

20當須達意其利||
當須會意不達其理

17(持)||十齋(B)

22曾+(行)(G)

22妄染||无(A)(B)(C)

20如+(米)(C)

16封||轉(A)(C)(D)(F)

21謂+(於諸)(B)(F)

18如+(米)(C)

23悟||悞(A)(B)(G)

23(故燃七燈者七識也。中間一識轉

21(願)||一(B)(C)(F)(G)

G

22曾+(行)(G)

19願||謂(A)(B)(C)(F)

24者+(齊也)(A)(C)(D)

24真+(如)(A)(B)(C)

22(食)||食(B)

17像||價(A)(C)(D)(F)

22(持)||十齋(B)

20食||食(B)

25(齊)||十齊(C)(G)

25(齊)||十齊(C)(G)

23躬+(言)(B)(F)(G)

G

23後||復(A)(B)(D)(F)

21躬+(言)(B)(F)(G)

26(覺)||十察(A)(C)(D)

26(覺)||十察(A)(C)(D)

24(斯食)||斷食者(B)

18遇鈍癡根||愚癡
鈍根(A)(C)(D)(F)(G)

25外||言(B)(F)(G)

22(斯食)||斷食者(B)

27(持)||十齋(B)

27(持)||十齋(B)

25(斷)||十於(B)(F)(G)

19真+(實之義唯將
外火烧於世間沈

24外||言(B)(F)(G)

23(斷)||十於(B)(F)(G)

28(齊)||十者(A)(B)(C)

28(齊)||十者(A)(B)(C)

26不+(會)(C)

25(斷)||十於(B)(F)(G)

25(斷)||十於(B)(F)(G)

24(者)||一(A)(C)

29(齊)||十者(A)(B)(C)

29(齊)||十者(A)(B)(C)

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

- 27 道 — B C D F
- 28 隨事 — 事隨 B F
- 29 權 — 推 B
- 30 礼拜 — B C F
- 31 敬 — 故 B C F
- 32 伏 — 故 B C F
- 33 為 — 十欲 A C F
- 34 心恭敬 — 心示恭敬 C
- 35 所得 — 功德 G

- 檀藁陸 A C D F G
- 20 布堅福寶 — 希望福報 A C D F G
- 21 義 — 十亦 A C D
- 22 所 — 謂 A C D
- 23 流 — 說 A C D
- 24 是 — 施 A C D F
- 25 明 — 彫 A C D F
- 26 僧姝 — 繪綵 A C
- 27 捐莫 — 損草 A C
- 28 所以為散何 — 所以者何 A C D
- 29 於 — 十諸 A C D
- 30 疑 — 毀 A C D F
- 31 實 — 報 A C D F
- 32 及 — 反 A D, 返 C
- 33 事 — 是 A C D F
- 34 身為通達 — A C D
- 35 者 — 為 A C D F

- 26 斷 — 十於 B F G
- 27 死見 — 无是 A C
- 28 隨事 — 事隨 B F
- 29 法 — 礼 A F G
- 30 者 — 伏也 A B
- 31 枉 — 性 A B F G
- 32 名 — 十為 A B F
- 33 覺 — 舉 B F G
- 34 縱 — 徒 A B F G
- 35 所得 — 功德 G
- 36 救 — 求 A B F G

25 不 — 會 C
26 事 — A

- 29 期 — 斯 A C D
- 30 以 — 異 A C D G
- 31 拜其 — 稱言 A C
- 32 又 — 礼 A B C D
- 33 獲 — 推 C
- 34 裏 — 理 A C G
- 35 伏 — 十也 A B G
- 36 謹 — 謙 A C G
- 37 亦 — 示 C
- 38 用 — 十之 A C C
- 39 理現 — 現身 A C
- 40 誰 — 誑 A C G
- 41 既 — 十无 A C C G
- 42 所得 — 功德 G

動、七識流轉、七々
 四九、燃四九燈、
 □除身中雜染種
 子、□□□關照
 用□□□通无
 碍 — A B C F
 24 憎脩 — 曾無 A B
 F、曾未 C
 25 達義 — 達其 B F
 26 示 — 尔 A C D F
 27 者 — 十齊也 A C
 D
 28 覺 — 十察 A C D
 29 持 — 十齋 B
 30 食 — 食 B
 31 悞 — 悟 B F
 32 于 — 身 A C D
 33 拜其 — 稱言 A C
 D
 34 裁 — 裁 F
 35 亦 — 示 C
 36 内 — B C F
 37 理現 — 現身 A C

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

36 加光 || 如燈光 F

G

37 對 || 轉 A C F G

38 常 || 尚 A F

39 證 || 燈 A C F

40 (仏) + 者 F G

41 通 || 過 A C G

42 鈍 + (根) A C F

G

43 諸 || 之 A C F G

44 諸 || 之 A C F G

45 你 || 尔 A C D F

46 者 + (齊也) A C

D

47 (齊) + 整 C G

48 齋 || 覺祭 A C D

49 (是) | F G

50 諸 || 之 A C D F

G

51 免 || 逸 A C D F

G

52 願 || 恣 A C D F

G

53 以 || 異 A C D G

54 拜其 || 稱言 A C

D

55 内 + (明) A C G

<p>(13)又問、温室經說、 洗浴衆僧、獲福无 量。此則憑於事法、 功德始成。若唯觀</p>	<p>P 4646</p>	<p>(13)又門、温室經說、 洗浴衆僧、獲福无 量。此則憑於事法、 功德所成。若唯觀</p>	<p>龍谷本</p>	<p>(13)又問、温室經說、 浴衆僧、獲福无量。 此則憑何事法、功 德始成。若唯觀心、</p>	<p>S 2595 (T 85)</p>	<p>(13)又問、温室經說、 洗浴衆僧、獲福无 量。此則憑於事法、 功德始成。若唯觀</p>	<p>P 2460</p>	<p>(13)又問、温室經說、 洗浴衆僧、獲福无 量。此則憑於事法、 功德始成。若唯觀</p>	<p>P 2657</p>
		<p>56 獲 推 C 57 裏 理 A C G 58 失 夫 A F G 59 (拜) A F G 60 (拜) 十者 A C F G 61 (明) A F G 62 願 欲 A C F G 63 裁 裁 F 64 謹 謙下 A C G 65 (不) A C F G 66 亦 示 C 67 諸 用之 A C G 68 諸 之 A C F G 69 理相現 現身相 A C 70 誰 誑 A C G 71 勉論 免淪 A C F G 72 既十 (无) A C G 73 所得 功德 G 74 六 云 A C F G</p>							

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

心、可相應不。
答曰、洗浴衆僧者、非世間有爲事。世尊當示、為諸弟子、說溫室經、欲令受持洗浴之法。是故假諸世事、比喻真宗、隱說七事供養功德。
其七事者、第一淨水、二者然火、三者澡豆、四者楊枝、五者純灰、六者蘇膏、七者內衣。舉此七事、喻於七法。一切衆生、由此七法、洗浴莊嚴、能除三毒无明垢穢。其七法者、一為淨戒。洗蕩慳非、如清淨水洗諸塵垢。二謂智惠。觀察內外、猶如然火能溫其水。三謂分別。簡棄諸惡、由如澡豆能除垢膩。四謂真實。斷諸妄語、如

心、可相應否。
答曰、衆僧洗浴者、非說世間有爲是也。世尊當尔、為弟子說溫室經、令受持洗浴之法也。是故假世間事、比喻真宗、說七事供養功德。
其七事者、第一淨水、第二然火、第三澡豆、第四楊枝、第五純灰、第六蘇膏、第七內衣。舉此七事、喻於七法。一切衆生、自此七法、洗浴莊嚴、能除三毒无明垢穢。其七法者、一謂淨戒。洗蕩慳非、猶如淨水棄諸塵垢。二謂智惠。觀察內外、猶如然火能溫淨水。三者分別。簡棄諸惡、猶如澡豆能除垢穢。四者真實。斷諸姪慾、如嚼楊

可相應不。
答曰、衆僧者、非說世間有爲事。世尊當尔、為諸弟子說溫室經、欲令受持洗浴之法。是故假諸世事、比喻真宗。說
七事者、第一淨水、二者然火、三者澡豆、四者楊枝、五者純灰、六者蘇膏、七者內衣。舉此七事、喻於七法。一切衆生、由此七法、洗浴莊嚴、能除三毒无明垢穢。其七法者、一為淨戒。洗蕩身心、如清淨水洗諸塵垢。二謂智惠。觀察內外、猶如然火能溫其水。三謂分別。簡棄、由如澡豆能除垢膩。四謂真實。斷諸妄語、如嚼楊

斷久……………
……楊枝、
五者純灰、六者蘇膏、七曰內衣。舉此七事、喻於七法。一切衆生、由此七法、洗浴莊嚴、能除三毒无明垢穢。其七法者、一為淨戒。洗蕩慳非、如清淨水洗諸塵垢。二謂智惠。觀察內外、猶如然火能溫其水。三謂分別。簡棄諸惡、由如澡豆能除垢膩。四謂真實。斷諸妄語、如

心、可相應否。
答曰、衆僧洗浴者、非說世間有爲事也。世尊當尔、為弟子說溫室經、欲令受持洗浴之法也。是故假世間事、比喻真宗、說七事供養功德。
其七事者、第一淨水、第二然火、第三澡豆、四者楊枝、五者純灰、六者蘇膏、七者內衣。舉此七事、喻於七法。一切衆生、自此七法、洗浴莊嚴、能除三毒无明垢穢。其七法者、一謂淨戒。洗蕩慳非、猶如淨水去諸塵垢。二謂智惠。觀察內外、猶如然火能溫淨水。三者分別。簡棄諸惡、猶如澡豆能除垢膩。四謂真實。斷諸姪慾、如嚼楊

心、可相應否。
答曰、衆僧洗浴者、非說世間有爲事也。世尊當尔、為弟子說溫室經、欲令受持洗浴之法。是故假世事、比喻真宗、隱說七事供養功德。
其七事者、第一淨水、第二燃火、三者澡豆、四者楊枝、五者純灰、六者蘇膏、七者內衣。舉此七事、喻於七法。一切衆生、自此七法、沐浴莊嚴、能除三毒无明垢穢。其七法者、一謂淨戒。洗蕩慳非、猶如淨水去諸塵垢。二謂智惠。觀察內外、猶如然火能溫淨水。三者分別。簡棄諸惡、猶如澡豆能除垢膩。四謂真實。斷諸姪慾、

嚼楊枝能消口氣。五謂正信。決無疑慮、如灰磨身能避諸風。六謂調柔。和剛強、由如蘇膏通潤皮膚。七謂慙愧。滅諸惡業、由如內衣遮弊醜形。如上七法、並是經中秘密之義。如來當示諸大乘利根者說、非為小智下劣凡夫。所以今人无能悟解。其温室者、即身是也。所以然智惠火、温淨戒湯、洗浴身中真如佛性、受持七法、以自莊嚴。當令比丘、聰

枝能消口氣。五者正信。決無疑慮、如灰磨身能除蟻虱。六者覺悟。伏諸剛強、猶膏通潤皮膚。七者慙愧。悔諸惡業、猶如內衣遍滿醜形。如上七法、皆是經中說之義。如來當爾、為諸大乘利根者說、非為少智下劣凡夫。所以今人无能悟解。其温室者、則身是也。所以然智惠火、温淨戒湯、沐浴身中真如佛性、受持七法、以自莊嚴。當爾諸時、比丘聰

枝能消口氣。五謂正信。決無疑慮、如灰磨身能避諸風。六謂柔。和諸剛強、由如蘇膏通潤皮膚。七謂慙愧。悔諸惡業、由如內衣遮蔽醜形。如上七法、並是經守秘密之義。如來當爾為諸大乘利根者、非為小智下劣凡夫。所以今人无能悟解。其温室者、即身是也。所以然智惠火、温淨戒湯、洗滌身中佛性、受持七法、以自莊嚴。當爾比丘、聰明利智、皆悟聖意、以此修行、功德成就、但登聖果。今時衆生愚癡鈍根、莫測其事、將世間水、洗質碍身、自謂依經。豈非悟也。且如佛性非是凡形煩惱塵埃、

嚼楊枝能消口氣。五謂正信。決無疑慮、如灰磨身能避諸風。六謂柔。和諸剛強、由如蘇膏通潤皮膚。七謂慙愧。諸惡業、由如內衣遮弊醜形。如上七法、並是經中秘密之義。如來當示諸大乘利根者說、非為小智下劣凡夫。所以今人无能悟解。其温室者、即身是也。所以然智惠火、温淨戒湯、洗浴身中真如佛性、受持七法、以自莊嚴。當令比丘、聰明利智、皆悟佛意、如說修行、功德成就、俱登聖果。今時衆生、愚癡鈍根、莫測其事、將世間水、洗質碍身、自為依經。豈非悟也。且如佛性非是凡形煩惱

枝能消口氣。五謂正信。決無疑慮、如灰磨身能除蟻虱。六謂覺悟。伏諸剛強、猶膏通潤皮膚。七謂慙愧。悔諸惡業、猶如內衣遮蔽醜形。如上七法、並是經中說之義。如來當爾、為諸大乘利根者說、非為小智下劣凡夫。所以今人無能悟解。其温室者、即身是也。所以然智惠火、温淨戒湯、沐浴身中真如佛性、受持七法、以自莊嚴。當爾之時、比丘聰

如嚼楊枝能消口氣。五謂正信。決無疑慮、如灰磨身能避諸風。六謂覺悟。伏諸剛強、猶如蘇膏通潤皮膚。七謂慙愧。悔諸惡業、猶如內衣遮蔽醜形。如上七法、並是經中說之義。如來當示、為諸大乘利根者說、非為小智下劣凡夫。所以今人无能悟解。其温室者、即身是也。所以然智惠火、温淨戒湯、沐浴身中真如佛性、受持七法、以自莊嚴。當示比丘、聰明利智、了悟聖意、如說修行、功德成就、俱登聖果。今時衆生、愚癡鈍根、不惻斯事、將世間水、洗質碍身、自謂依經。豈非悞也。是真如

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

煩惱塵埃、本來无相。豈可將有碍水、洗无碍身。事不相應。云何可得。若言碍身清淨、當觀此身、元因貧欲、不淨所生、是穢駢闌、内外充滿。若洗此身、求於淨者、猶如洗塹泥盡則應停。以此驗之、明知外洗非佛說也。

凡形煩惱塵埃、本來无相。豈可將有碍水、洗无爲身。事不相應。云何可得。若言碍身得清淨者、當觀此身、无事貧欲、不淨所生、是穢駢闌、内外無漏。若洗此身、求於淨者、猶如洗塹泥盡應停。以此驗之、明知外洗非佛說也。

本來无相。豈可將有碍水、洗无爲身。事不相應。云何可得。若言碍身清淨、當觀此身、无因貧欲、不淨所生、是穢駢闌、内外充滿。若洗此身、求於清淨者、猶如洗塹泥盡應停。以此驗之、明知外洗非佛說也。

煩惱塵埃、本來无相。豈可將有碍水、洗无碍身。事不相應。云何可得。若言碍身清淨、當觀此身、元因貧欲、不淨所、是穢駢闌、内外充滿。若洗此身、求於淨者、猶如洗塹泥盡則應停。以此驗之、明知外洗非佛說也。

凡形煩惱塵埃、本來无相。豈可將有碍水、洗無爲身。事不相應。云何可得。若言碍身得清淨者、當觀此身、无是貧欲、不淨所生、是穢駢闌、内外无漏。若洗此身、求於淨者、猶如洗塹泥盡則應停。以此驗之、明知外洗非佛說也。

仏、非是凡形煩惱塵埃、本來相續。豈可將質碍水、洗无爲身。事不相應。云何可得。若言碍身得清淨者、當觀此身、元貧欲、不淨所生、是穢駢闌、内外泄漏。若洗此身、求於淨者、猶如洗塹泥盡應停。以此驗之、明知外洗非佛說也。

- ①示 || 尔 B C F G
- ②諸 || 十剛 B C D
- ③滅 || 悔 B C F G
- ④弊 || 蔽 C F G
- ⑤示 || 尔 B C F
- ⑥為 || 十諸 B C F
- ⑦令 || 尔 B C F
- ⑧悟 || 悞 B F G
- ⑨擊 || 塹 B D F G

- ①門 || 問 A C D F
- ②所 || 始 A C F G
- ③衆僧洗浴 || 洗浴 衆僧 A
- ④是 || 事 A C F G
- ⑤欲 || 十合 A C F G
- ⑥其 || 十 A G
- ⑦音 || 膏 A C D F
- ⑧(七) || 十法 A C D
- ⑨自 || 由 A C D
- ⑩棄 || 去 F G
- ⑪姪慾 || 妄語 A C D

- ①經 || 說 A B F G
- ②何 || 於 A B F G
- ③洗浴 || 十衆 A
- ④說 || 十(七)事供養功德 A B F G
- ⑤其 || 十七 A B F
- ⑥身 || 心 || 憊非 A B
- ⑦棄 || 十(諸)惡 A B
- ⑧(調) || 十柔 A
- ⑨守 || 中 A B D F

- ①鈍 || 純 A B C F
- ②(調) || 十柔 A
- ③悔 || 十諸 B C F
- ④弊 || 蔽 C F G
- ⑤示 || 尔 B C F
- ⑥為 || 十諸 B C F
- ⑦令 || 尔 B C F
- ⑧悟 || 悞 B F G
- ⑨无 || 元 A G
- ⑩所 || 十(生) A B C

- ①衆僧洗浴 || 洗浴 衆僧 A
- ②其 || 十(七) A G
- ③(七) || 十法 A C D
- ④自 || 由 A C D
- ⑤謂 || 諸 A B D G
- ⑥姪慾 || 妄語 A C
- ⑦悞 || 悟 A B C D
- ⑧悞 || 悟 A B C D
- ⑨嘆悞 || 莫測 A C
- ⑩來 || 十(无) A C D
- ⑪无 || 是 || 元因 A

- ①衆僧洗浴 || 洗浴 衆僧 A
- ②(七) || 十法 A C D
- ③自 || 由 A C D
- ④淫慾 || 妄語 A C D
- ⑤鼻 || 醜 A B C D
- ⑥示 || 尔 B C F
- ⑦悞 || 悟 A B C D
- ⑧示 || 尔 B C F
- ⑨悞 || 悟 A B C D
- ⑩側 || 測 A C D
- ⑪仏 || 十(性) A B C

答曰、夫念佛者、當須正念。若不了義、即為邪念。正

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

(14)又問、經云所言、至心念仏、必得往生西方淨土。此一門、即應成仏。何假觀心、求於解脫。答曰、夫念仏者、當須正念。了義為正、不了義為邪。

(14)又問、經所說言、至心念佛、必得解脫。答曰、夫念佛者、當須正念。為正、不了義即為邪。正

(14)又問、經所說言、至心念佛、必得解脫。答曰、夫念佛者、當須正念。若不了義、即為邪念。正

(14)又問、經所說言、至心念仏、必得往生西方淨土。此一門、即應成仏。何假觀心、求於解脫。答曰、夫念佛者、當須正念。了義為正、不了義為邪。

P 2460

P 2657

(14)又問、經所說言、至心念仏、必得往生西方淨土。此一門、即應成仏。何假觀心、求於解脫。答曰、夫念仏者、當須正念。了義為正、不了義為邪。

(14)又問、如經所說、念必得解脫。

- ⑫ 遍滿 || 遮蔽 (C) (F)
- ⑬ 普 || 並 (A) (C) (D) (F)
- ⑭ (仁) || 十說 (F) (G)
- ⑮ 諸 || 之 (F)
- ⑯ 合 || 今 (A) (C) (D) (F)
- ⑰ 嗔恚 || 莫測 (A) (C)
- ⑱ 來 || 十 (无) (A) (C) (D)
- ⑲ 无事 || 元因 (A)
- ⑳ 鼻 || 鼻 (A) (C) (D) (F)
- ㉑ 無漏 || 充滿 (A) (C)
- ㉒ 名 || 明 (A) (C) (D) (F)

- ⑩ 者 || 十 (說) (A) (B) (D)
- ⑪ 蕩 || 浴 (A) (D)
- ⑫ 聰 || 聰 (A) (B) (D) (F)
- ⑬ 以此如說 (A) (B) (D) (F) (G)
- ⑭ 但 || 俱 (A) (B) (D) (F) (G)
- ⑮ 悟 || 悞 (B) (F) (G)
- ⑯ 无 || 元 (A) (G)
- ⑰ 擊 || 擊 (B) (D) (F) (G)

- ⑫ □ || 穢 (A) (B) (C) (D)
- ⑬ 无漏 || 充滿 (A) (C)

- ⑫ 本来相續 || 本来无相 (A) (C) (D)
- ⑬ 元 || 十 (因) (A)
- ⑭ 統 || 闡 (A) (B) (C) (D)
- ⑮ 世漏 || 充滿 (A) (C)

P 4946

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

念佛必得往生淨國

邪念云何達彼岸。

佛者覺也。所爲覺

察身心、勿令起惡

念者憶也。謂堅持

戒行、不妄精勤。

了如來義、名爲正

念。故知念在於心、

不在於言。因筌求

魚、得魚妄筌、因

言求意、得意妄言。

既稱念佛之名、須

行念佛之體。若心

無實體、口誦空名、

徒念虛功、有何成

益。且如誦之與念、

名義懸殊。在口曰

誦、在心曰念。故

知念從心起、名爲

覺行。誦在口中、

即是音聲之相。執

着求福、終無是乎。

故經曰、凡所有相

皆是虛妄。又云、

若以色見我以音聲

求我、是人行邪道、

不能見如來。以此

正念必得往生淨土

邪念云何達彼。仏

者覺也。所謂覺觀

察身心、勿令起惡

意也。所謂精進持

戒行、不妄精進。

了如是義、名爲正

念。故知念在於言、

因言求意、得意亡

言。

既稱念仏之名、須

行念仏之鉢。善心

無實鉢、口誦空名、

徒爾虛空、有何成

善。且如誦經諸與

念、名義懸殊。在

曰念故之念徒

名爲覺行之。誦在

口是、即是音聲之

相。執相求福、終

無是處。故經云、

凡所有相皆是虛妄、

又云、若以色見我

以音聲求我、是人

行邪道、不能見如

來。以此觀心、了

念必得往生淨國

邪念云何達彼。佛

者覺也。所爲覺察

心原、勿令起惡

念者憶也。謂堅持

戒行、不忘精勤。

了如來義、名爲正

念。故知念在於心、

不在於言。因筌求

魚、得魚妄筌、因

言求言、得意忘言。

既稱念佛之名、須

行念佛之體。若心

無實、口誦空言、

徒念虛功、有何成

益。且如誦之與念、

名義懸殊。在口曰

誦、在心曰念。故

知念從心起、名爲

覺行之門。誦在口

中、即是音聲之相。

執相求福、終無是

乎。故經云、凡所

有相皆是虛妄。又

云、若以色見我以

音聲求我、是人行

邪道、不能見如來。

念佛必得往生淨國

邪念云何達彼岸。

佛者覺也。所爲覺

察身心、勿令起惡

念者憶也。謂堅持

戒行、不妄精勤。

了如來義、名爲正

念。故知念在於心、

不在於言。因筌求

魚、得魚妄筌、因

言求意、得意妄言。

既稱念仏之名、須

行念仏之體。若心

無實體、口誦空名、

徒念虛功、有何成

益。且如誦之與念、

名義懸殊。在口曰

誦、在心曰念。故

知念從心起、名爲

覺行。誦在口中、

即是音聲之相。執

着求福、終無是乎。

故經曰、凡所有相

皆是虛妄。又云、

若以色見我以音聲

求我、是人行邪道、

不能見如來。以此

正念必得往生淨土

邪念云何達彼。仏

者覺也。所謂覺察

身心、勿令起惡意

也。所謂精進持戒

行、不妄精進。了

如是義、名爲正念。

故知念在於言。因

言求意、得意妄言。

既稱念仏之名、須

行念仏之體。若心

無實體、口誦空名、

徒爾虛功、有何成

益。且知誦經之與

念、名義懸殊。在

曰念。故知念從心

起、名爲覺行之門。

誦在口中、即是音

聲之相。執相求福、

終無是處。故經云、

凡所有相皆是虛妄、

又云、若以色見我

以音聲求我、是人

行邪道、不能見如

來。以此觀心、了

正念必得往生、耶

念云何達彼。仏者

覺也。所謂覺察身

心、勿令起惡意也。

所謂精進持戒行、不

妄精進。了如是義、

名爲正念。故知念

在於言。因筌求魚、

得魚得魚忘筌、因

言求意、得意忘言。

既稱念仏之名、須

行念仏之體。若心

無實體、口誦空名、

徒示虛功、有何成

益。且如誦經之與

念、名義懸殊。在

在心曰念。故知念

從心起、名爲覺行

之門。誦在口中、

即是音聲之相。執

相求福、終無是乎。

故經云、凡所有相

皆是虛妄。又云、

若以色見我以音聲

求我、是人行邪道、

不能見如來。以此

觀之、乃知事相非真正也。故知過去諸佛所修功德、皆非外說、唯只論心。心是衆善之源、心是万惡之主。涅槃常樂、由自心生、三界輪廻、亦從心起。心為出世之門戶、心是解脫之關津。知門戶者豈慮難成、識關津者何憂不達。

知事相非是眞也。故知過去諸聖所修功德、比非外說、唯只論心。即心是衆善之源、即心為万惡之主。菩薩常樂、由自心生、三界輪廻亦從心起。心為出世之門戶、心是解脫諸關津。知門戶者豈慮難成、識關津者何憂不達。

以此觀之、乃知事相非真正也。過去諸佛所修功德、皆非外說、唯正論心。是衆善之源、是万惡之主。涅槃經常樂、由自心生、三界輪廻六從心起。心為出世之門戶、心是解脫之關津。知門戶者豈慮難成、識關津者何憂不達。

觀之、乃知事相非真正也。故知過去諸佛所修功德、皆非外說、唯正論心。心是衆善之源、心是万惡之主。涅槃常樂、由自心生、三界輪廻亦從心起。心為出世之門戶、心是解脫之關津。知門戶者豈慮難成、識關津者何憂不達。

知事相非是眞也。故知過去諸聖所修功德、比非外說、唯只論心。即心是衆善之源、即心為万惡之主。涅槃常樂、由自心生、三界輪廻亦從心起。心為出世之門戶、心是解脫之關津。知門戶者豈慮難成、識關津者何憂不達。

觀心、乃知事相非真正也。故知過去諸聖所修功德、皆非外說、唯只論心。即心是衆善之源、即心是万惡之主。涅槃常由心生、三界輪廻亦從心起。心□□□□

- ①念||至心念仏(B)
- ②了義為正||十若(B)(F)(G)
- ③憶||憶(C)(D)
- ④(所)||十謂(B)(F)(G)
- ⑤妄||忘(C)
- ⑥妄||忘(C)
- ⑦妄||忘(C)(G)
- ⑧行+(之)門(C)(F)
- ⑨着||相(B)(C)(F)(G)
- ⑩乎||處(B)(F)

- ①觀||一(A)(C)(D)(F)(G)
- ②意也||念者憶也(C)(D)
- ③精進||堅(A)(C)(D)
- ④妄||忘(C)
- ⑤善||若(A)(C)(D)(F)
- ⑥謂||誦(A)(C)(D)
- ⑦空||功(A)(C)(D)(F)
- ⑧善||益(A)(C)(D)(F)
- ⑨諸||之(A)(C)(D)(F)
- ⑩乎||處(B)(F)

- ①了義||十為(B)(F)(G)
- ②心原||身心(A)(B)(D)(F)(G)
- ③(所)||十謂(B)(F)(G)
- ④勤||勤(A)(D)
- ⑤妄||忘(C)
- ⑥言||意(A)(B)(D)(F)
- ⑦言||名(A)(B)(D)(F)
- ⑧乎||處(B)(F)
- ⑨(故)知||十過(A)(B)(D)(F)

- ①了義為正||十若(B)(F)(G)
- ②妄||忘(C)
- ③妄||忘(C)
- ④妄||忘(C)(G)
- ⑤行+(之)門(C)(F)
- ⑥着||相(B)(C)(F)(G)
- ⑦乎||處(B)(F)
- ⑧正||只(A)(B)(F)(G)

- ①耶||邪(A)(B)(C)(D)
- ②意也||念者憶也(C)(D)
- ③精進||堅(A)(C)(D)
- ④妄||忘(C)
- ⑤妄||忘(C)(G)
- ⑥調||誦(A)(C)(D)
- ⑦且||且(A)(B)(C)(D)(G)
- ⑧念+(仏)(G)
- ⑨在+(心)(G)
- ⑩心||之(A)(C)(D)
- ⑪比||皆(A)(C)(D)(G)
- ⑫優及||憂不(A)(C)(D)(G)

- ①生+(淨)(七)(B)(F)、淨國(A)(C)(D)
- ②耶||邪(A)(B)(C)(D)
- ③意也||念者憶也(C)(D)
- ④精||堅(A)(C)(D)
- ⑤妄||忘(C)
- ⑥勤||勤(A)(D)
- ⑦(得)魚||一(A)(C)(D)
- ⑧調||誦(A)(C)(D)
- ⑨示||尔(B)(F)
- ⑩(在)口日誦||十在乎||處(B)(F)

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

⑩念十(仏)G
⑪在口念故念徒
在口口誦在心口
念故知念徒心起

⑩正||只(A)B(F)G
⑪(經)一(A)D(F)G
⑫六||亦(A)B(D)F
G

A(C)D

⑫之十(門)C(F)G

⑬是||中(A)C(D)F

G

⑭心||之(A)C(D)

⑮比||皆(A)C(D)G

⑯論十(心)(A)C(D)

F(G)

⑰(一)万||一(A)C(D)F

G

⑱菩薩一涅槃(A)C

D(F)G

⑲諸||之(A)C(D)F

⑳達及||不達(A)C

D(G)

(15)竊見今時淺識、

唯執事相為功。廣

費財寶、多損水陸、

妄營像塔、虛役人

夫、積木壘泥、圖

舟畫像、傾心盡力、

損已迷他。未解慙

(15)切見今時淺識、

唯五事相為功。廣

費財寶、多損水陸、

妄營像塔、虛役人

夫、壘泥圖青畫深、

假心盡力、損已迷

他。未解慙愧、何

(15)竊見今時淺識、

唯事見相為功。廣

費財寶、多損水陸、

妄營像塔、虛役人

夫、積木壘泥、圖

丹畫綠、傾心盡力、

於已迷他。未解慙

(15)竊見今時淺識、

唯執事相為功。廣

費財寶、多損水陸、

妄營像塔、虛役人

夫、積木壘泥、圖

丹畫像、傾心盡力、

損已迷他。未解慙

(15)切見今時淺識、

唯五事相為功。廣

費財寶、多損水陸、

妄營像塔、虛役人

夫、積木壘泥、圖

清畫綵、傾心盡力、

損已迷他。未解慙

(15)見□□□□、

唯立事相為功。廣

費財寶、多傷水陸、

妄□□□□□人夫、

積木壘泥、圖清畫

綵、傾心盡力、□

□□□□□慙何

⑫心||之(A)C(D)
⑬常十(乘)(A)B(C)
D(F)
⑭(自)十心(A)B(C)
D(F)

愧、何曾覺悟。有
此勤勤執着、說於
无相、兀兀如迷。
且貪目下之小慈、
不覺入當來之大苦。
此之脩學、徒自疲
勞、背正歸邪、詐
言獲福。但能攝心
內照、覺觀常明、
絕三毒永使消亡六
賊、不令侵擾、自
然恒沙功德、種種
莊嚴、無數法門、
悉皆成就。超凡證
聖、目擊非遙。悟
在須臾、何煩皓首。
法門幽秘、寧可具
陳。略而論心、詳
其少分。

曾覺悟。見有為歎々
受著、說无相无无
迷。他且見世之少
慈、豈覺當來之大
苦。此修齋、徒自
疲勞、背正歸邪、
誰能獲福。但能攝
心內照、覺觀常明、
絕三毒永使消亡、
閑六賊不令侵、
自然恒沙功德、
種々莊嚴、无数行
了、一一就。超凡
證聖、自繫叶陳宗。
略述觀心、祥其少
分者候。

愧、何曾覺悟。見
有勤勤執着、說於
无相、兀兀如迷。
但貪目下之小慈、
不覺當來入大苦。
此之修學、徒自疲
勞、背正歸邪、詐
言獲福。但能攝心
內照、覺觀常明、
絕三毒永使消亡六
賊、不令侵擾、自
然恒沙功德、種種
莊嚴、无数法門、
悉皆成就。超凡證
聖、目擊非遙。悟
在須臾、何煩皓首。
法門幽秘、寧可具
陳。略而論心、詳
其少分。

愧、何曾覺悟。有
此勤勤執着、說於
无相、兀兀如迷。
且貪目下之小慈、
不覺入當來之大苦。
此之脩學、徒自疲
勞、背正歸邪、詐
言獲福。但能攝心
內照、覺觀常明、
絕三毒永使消亡六
賊、不令侵擾、自
然恒沙功德、種種
莊嚴、无数法門、
悉皆成就。超凡證
聖、目擊非遙。悟
在須臾、何煩皓首。
法門幽秘、寧可具
陳。略而論心、詳
其少分。

愧、何曾覺悟。見
有為歎々愛著、說
无相无々如迷。他
且見世之小慈、起
覺當來之大苦。此
之脩學、徒自疲勞、
皆正歸邪、誰能獲
福。但能攝心內照、
覺觀常明、絕三毒
永使消亡、閑六賊
不令侵擾、自然恒
沙功德、種々莊嚴、
无数行門、一一成
就。超凡證聖、目
擊非遙。悟在須臾、
何煩皓首。門幽暗、
寧確口陳宗、略述
觀心、詳其少分者
矣。

曾覺悟。見是有為
歎々愛著、□□□
□□□□□□染見
世小慈、豈覺當來
之大苦。□□□□
□□□□正歸邪、
誰能獲福。但能攝
心內□□□□□□
□□□□銷亡、閑
六賊不令侵擾、□
□□□□□□□□
□□□□門、一々
成就。□□□□□
□□□〔…欠…〕

嘆是忍辱花
喜是忍辱菓
花來便摘却
莫來无處坐

西天竺國沙門王國
在來

觀心論一卷
庚申時五月二十
三日記

嘆是忍辱花
喜是忍辱菓
花來便摘却
莫來無處坐

- ①舟||丹(C)(D)
- ②有此||見有爲(B)

- ①切||竊(A)(C)(D)
- ②五||立(F)
- ③捐||損(A)(D)(G)

- ①事見||見事?
- ②於||損(A)(B)(D)(F)
- ③有+(爲)(B)(D)(F)

- ①有此||見有爲(B)
- ②〔入〕- (B)(C)(F)(G)

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

□□□□前謹牒
天復三年十一月
日僧□□謹□

P 4646

龍谷本

S 2595 (T 85)

S 5532

S 646

P 2460

P 2657

③〔入〕—B C F G

④〔積木〕+墨 A C

D F G

⑤深||綵 F G、綠

C、像 A D

⑥假||傾 A C D F

G

⑦捐||損 A D F

⑧悞||悟 A C D G

⑨受||愛 F G、執

A C D

⑩无无迷||兀兀如

迷 A C D

⑪此修齋||此之修

學 A C D F

⑫閑||閉 F G、

〔閑〕—A C D

⑬了||門 A C D F

G

⑭(成)+就 A C D

F G

⑮自繫||目擊 A C

D F

⑯悞||矣 F

④入||之 A B D F
G

④悞||悟 A C D G
⑤无无||兀兀 A C
D

⑥且||且 B

⑦起||豈 B G、不

A C D

⑧皆||背 A B C D

⑨悞||悟 A C D

⑩〔法〕+門 A C D